

地域と学校の協働の推進について

平成30年3月

愛知県生涯学習審議会社会教育分科会

## 目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
I 地域と学校が連携・協働した取組に関する調査の概要・・・・・・・・	2
II 地域と学校が連携・協働した取組に関する調査の結果と考察・・・・・・・・	3
III これからの方向性について（提言）・・・・・・・・・・・・・・・・	18
資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
・地域と学校が連携・協働した取組に関する調査票及び結果・・・・・・・・	20
・愛知県社会教育分科会委員名簿及び審議の経過・・・・・・・・	49

## はじめに

地域社会のつながりや支え合いの希薄化等による地域の教育力の低下や、家庭教育の充実の必要性が指摘されているとともに、学校が抱える課題は複雑化・困難化している。こうした状況の中、平成27年12月21日に中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」が出された。

ここでは、地域と学校がパートナーとして、共に子供を育て、共に地域を創るという理念に立ち、地域の教育力を向上させ、持続可能な地域社会をつくる必要があるとしている。そして、従来の学校支援地域本部、放課後子供教室、家庭教育支援チーム等の活動をベースに、「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を図り、組織的・継続的な仕組みとして、新たな体制としての「地域学校協働本部」へ発展させ、地域学校協働本部が、早期に全小中学校区をカバーして構築されることを目指している。

地域と学校が連携・協働することで、新しい人と人とのつながりも生まれ、地域の教育力の向上につながるるとともに、地域の教育力の向上は、地域の課題解決や地域振興、さらには、持続可能な地域社会の源となり、「生涯学習社会」の構築にも資するものである。

このような状況を踏まえ、愛知県生涯学習審議会社会教育分科会では、調査・研究事業の一環として、平成28年度に「地域と学校の協働の推進について」を協議題として設定し、以下の3点、

- ① 地域と学校の協働の現状と課題
- ② 地域と学校の協働の推進のあり方
- ③ 地域と学校の協働の取組の方向性

に視点を置き、協議を重ねてきた。そして、県内市町村、地域コーディネーター及び小中学校の実態調査を行い、地域と学校の連携・協働について、どのように取り組まれているのか、今後推進するにあたってどのような課題があるのか、についてまとめることとした。

県内の市町村、地域コーディネーター及び小中学校等において、現状を把握していただけでなく、この報告書が有効に活用され、相互にパートナーとして連携・協働できる地域社会の実現が図られることを切に願うものである。

平成30年3月

愛知県生涯学習審議会社会教育分科会

会長 大村 恵

# I 地域と学校が連携・協働した取組に関する調査の概要

## 1 研究調査テーマ

「地域と学校の協働の推進について」

## 2 調査目的

平成27年12月に出された、中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」では、従来の学校支援地域本部、放課後子供教室、家庭教育支援チーム等の活動をベースに、「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を図り、組織的・継続的な仕組みとして、新たな体制としての「地域学校協働本部」へ発展させ、地域学校協働本部が、早期に全小中学校区をカバーして構築されることを目指している。

そこで、地域と学校の協働の推進のあり方や方向性を探る際の参考とするため、市町村、地域コーディネーター及び小中学校に対し地域と学校が連携・協働した取組について調査を実施した。

## 3 調査対象

- (1) 市町村（名古屋市除く。）
- (2) 地域コーディネーター
- (3) 公立小中学校（名古屋市立除く。）

## 4 調査期間

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| (1) 市町村        | 平成28年 8月12日から同年 8月31日まで    |
| (2) 地域コーディネーター | 平成28年12月12日から平成29年 1月10日まで |
| (3) 公立小中学校     | 平成29年 8月 1日から同年 9月14日まで    |

## 5 回答者数

- |                |                |
|----------------|----------------|
| (1) 市町村        | 53市町村          |
| (2) 地域コーディネーター | 156人           |
| (3) 公立小中学校     | 1,010校（うち分校1校） |

## 6 共通する調査項目

- (1) 地域と学校の協働活動の取組について
- (2) 協働活動として取り組まれている活動について
- (3) コーディネーターの役割や期待することについて
- (4) コーディネーター及び地域支援者の発掘方法について
- (5) 地域との協働活動は円滑に進んでいるか、またその要因について
- (6) 学校（地域）支援の取組を導入した当初のねらい、成果・効果について
- (7) 今後の協働活動の目指す目標・意義について
- (8) 地域との協働活動を進めるために必要な取組について

## II 地域と学校が連携・協働した取組に関する調査の結果と考察

### 1 調査結果について

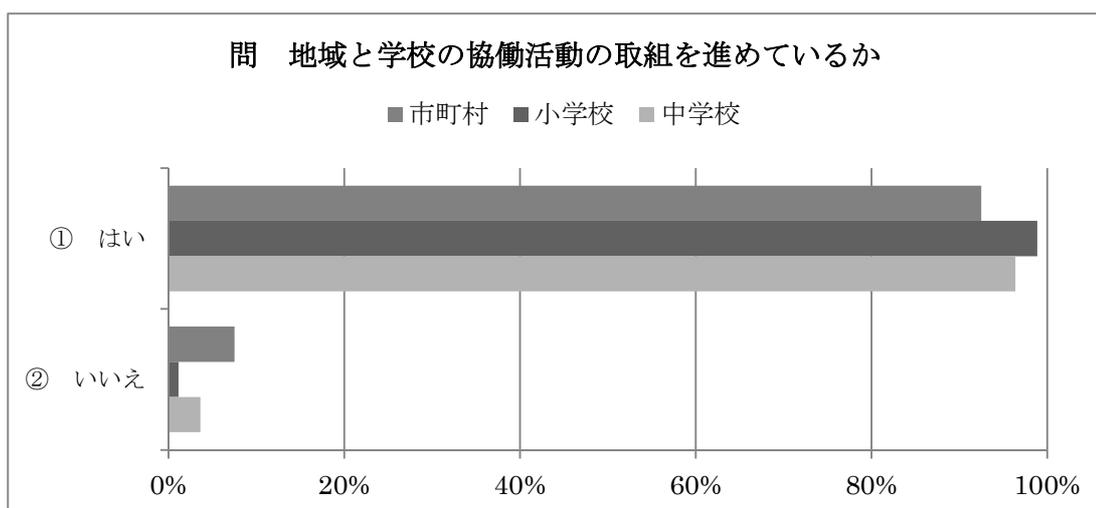
平成28年度、29年度にかけて「地域と学校が連携・協働した取組」について県内市町村、地域コーディネーター及び小中学校を対象に調査を実施した。

調査結果の一覧については、資料編を御覧いただきたいが、ここでは、共通した調査項目に対する回答を比較することとする。

#### (1) 地域と学校の協働活動の取組について

市町村では49市町村で92.5%、小学校では698校で98.9%、中学校では293校で96.4%が「進めている」と回答しており、市町村及び小中学校のほとんどで、取組が推進されている。

なお、市町村においては、教育計画等に位置付けられ、学校教育担当課が所管していることが多い。



#### (2) 協働活動として取り組まれている活動について

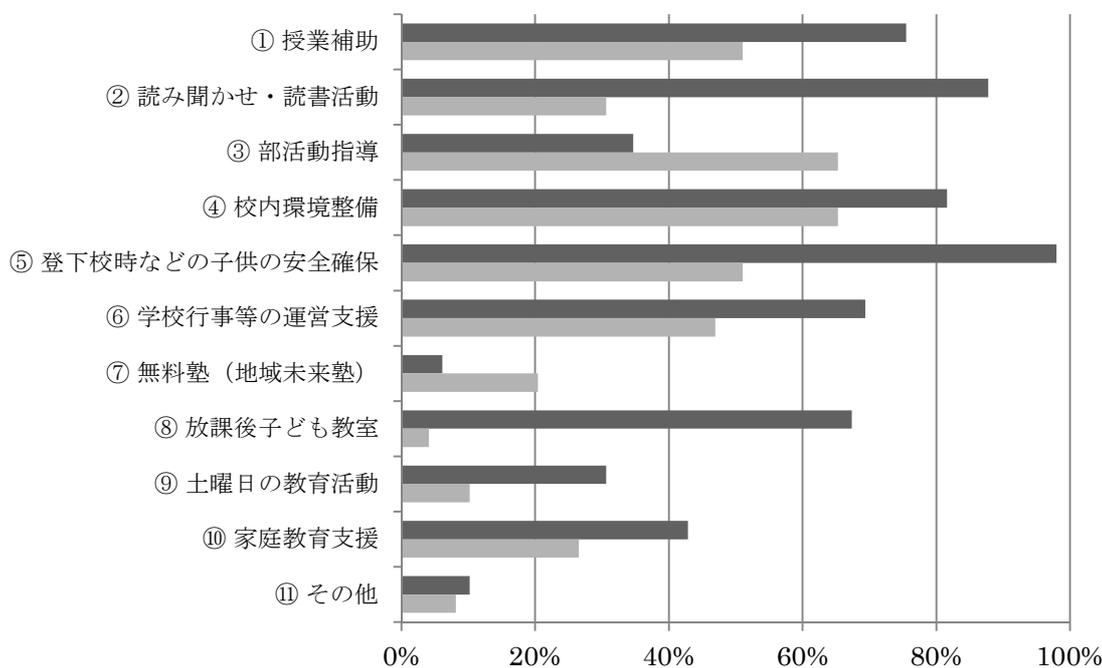
活動内容は、小学校では、市町村・学校とも「登下校時などの子供の安全確保」が最も多く、それぞれ98.0%、97.1%の回答があり、ほとんどの学校で実施している認識がある。次に、「読み聞かせ・読書活動」、「校内環境整備」と続いている。

中学校で最も多かったのは、「部活動指導」で、市町村65.3%、中学校71.0%であった。続いて「校内環境整備」、「学校行事等の運営支援」となる。

また、半数の市町村が「授業補助」との回答を挙げている。

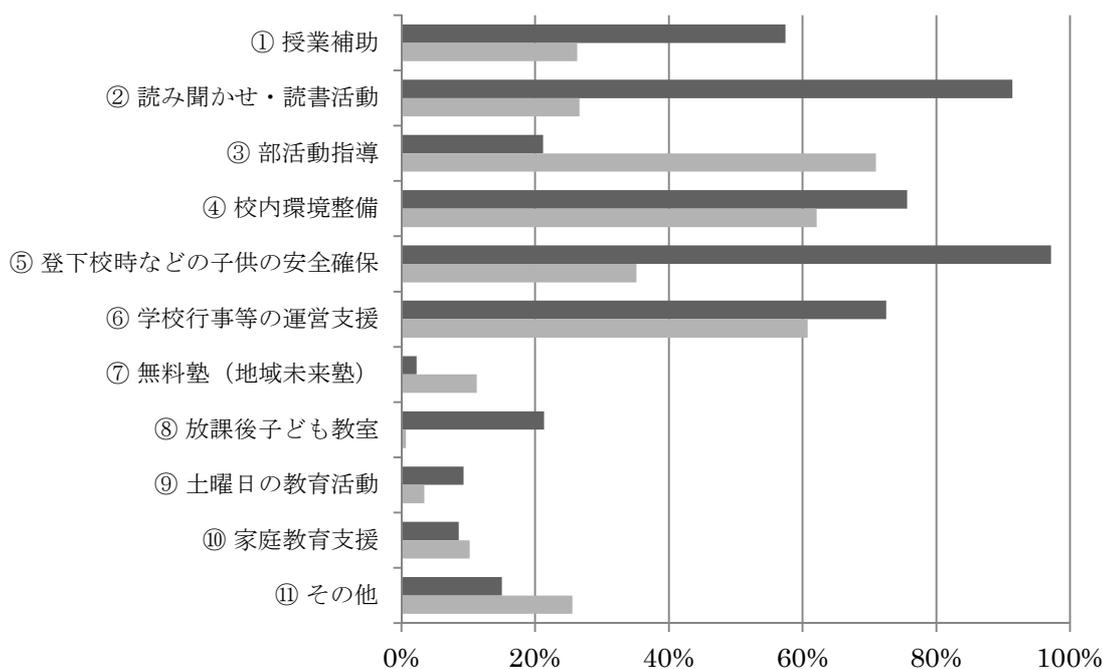
問 協働活動として取り組まれている内容は（市町村の回答）

■ 小学校 ■ 中学校



問 協働活動として取り組まれている内容は（小中学校の回答）

■ 小学校 ■ 中学校

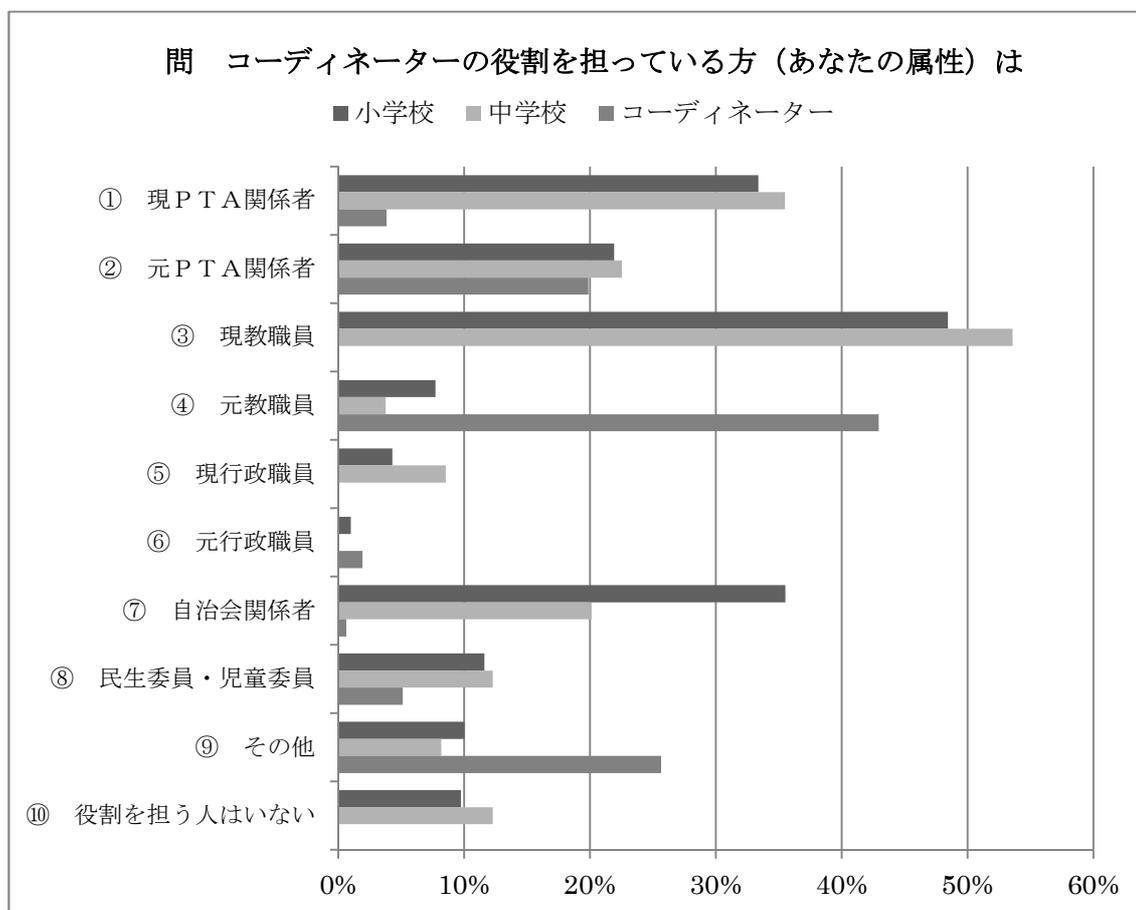


(3) コーディネーターの役割や期待することについて

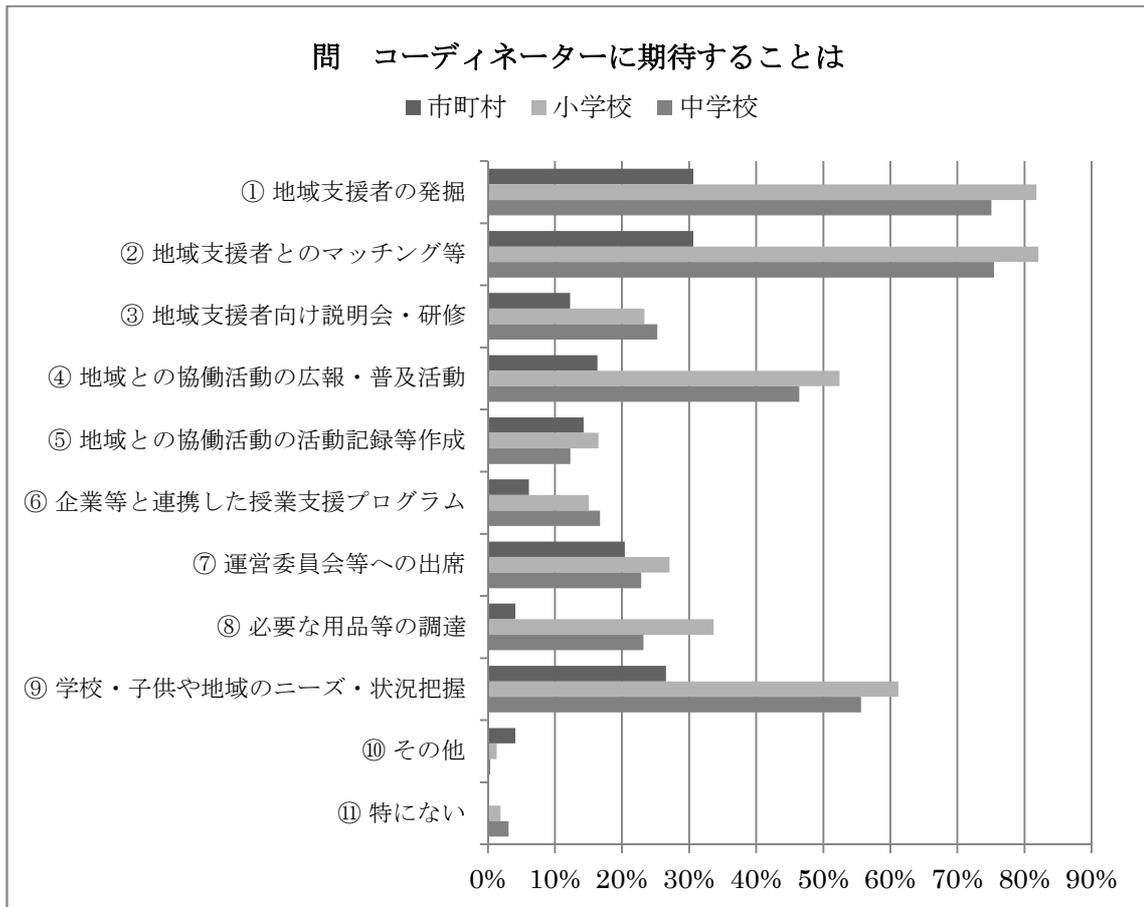
コーディネーターの役割を現職教職員が担っているとの回答は、小学校では48.4%、中学校では53.6%であり、外部人材がコーディネーターを務めている学校は半数程度にとどまっている。

また、コーディネーターへの調査では42.9%が元教職員の方である。

コーディネーターの活動内容として期待していることは、市町村、小中学校とも「地域支援者の発掘」、「地域支援者とのマッチング・活動計画立案・日程調整等」、「学校・子供や地域のニーズ・状況把握」の順に多くなっている。



※ コーディネーター：③、⑤、⑩の選択肢なし



※ 市町村：⑪の選択肢なし

(4) コーディネーター及び地域支援者の発掘方法について

コーディネーターの発掘については、市町村は「教職員からの紹介」、小中学校は「PTAからの紹介」が最も多い方法となっている。

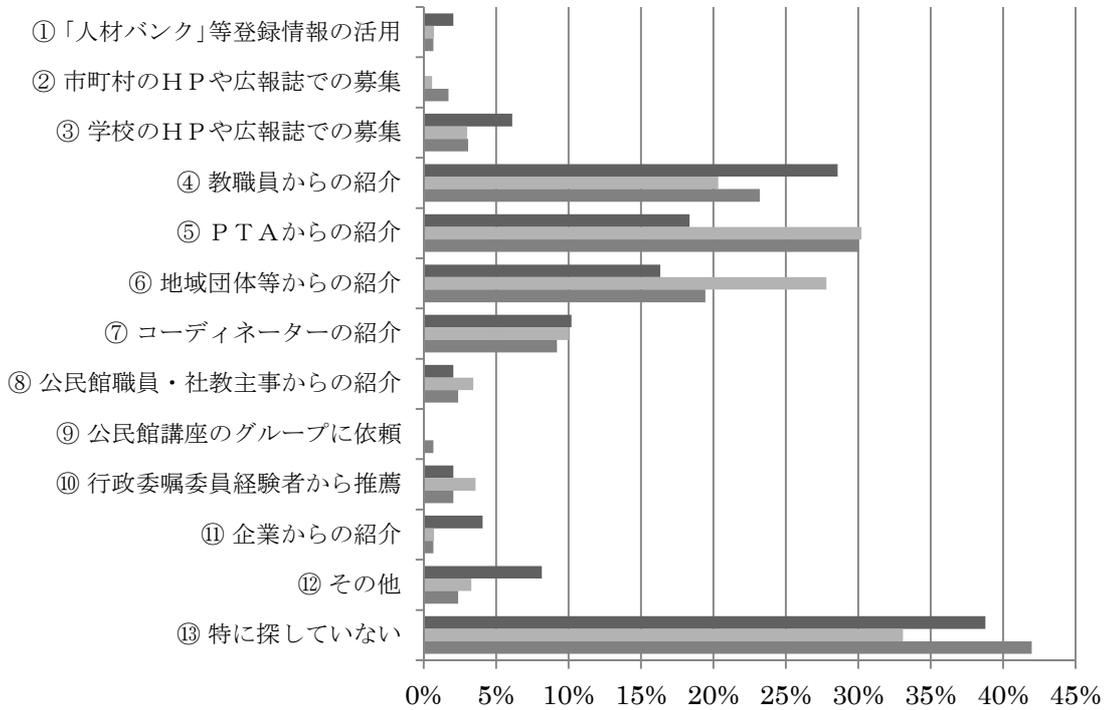
しかし、市町村、小中学校とも発掘以前に「特に探していない」が最も多い。

地域支援者の発掘については、市町村は「地域団体等からの紹介」が、小中学校では「PTAからの紹介」が最も多くなっている。教職員からの紹介も順に続き、身近な方からの紹介が多くを占めている。

また、3割以上の市町村においては、市町村や学校でのホームページや広報誌を活用している。

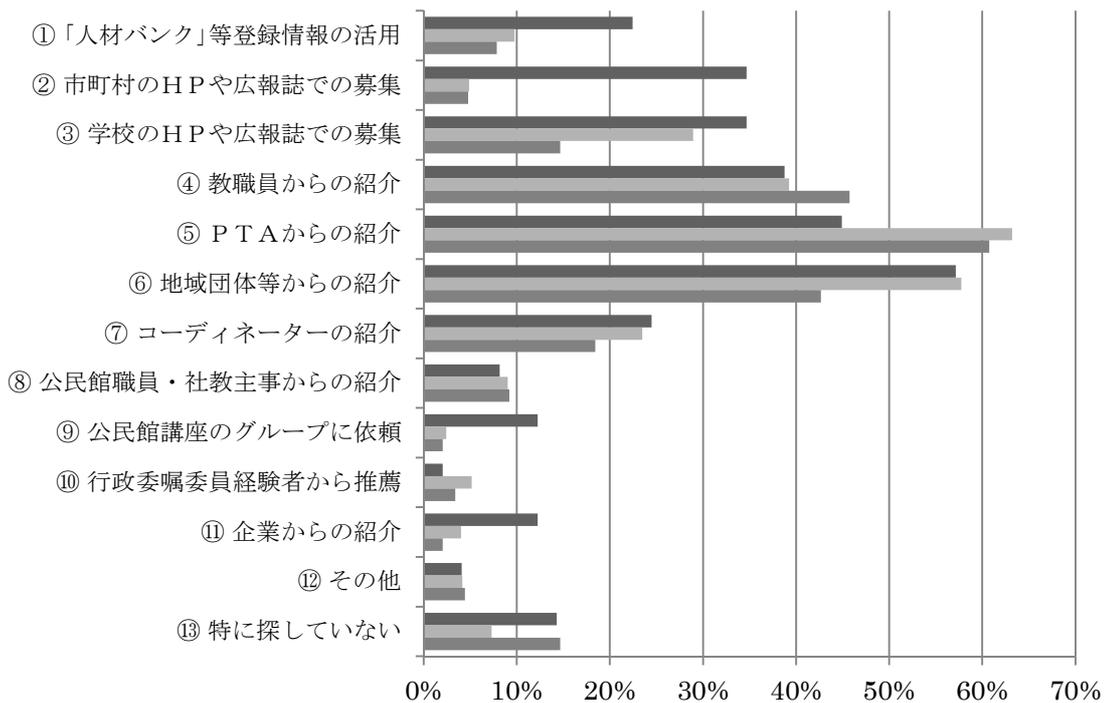
### 問 コーディネーターをどのように発掘しているか

■市町村 ■小学校 ■中学校



### 問 地域支援者をどのように発掘しているか

■市町村 ■小学校 ■中学校



(5) 地域との協働活動は円滑に進んでいるか、またその要因について

「そう思う」、「ややそう思う」との回答が、小学校では 92.9%、中学校では 81.9%、コーディネーターでは 73.6%であった。

そう回答した要因については、小中学校の回答は「ボランティアなど地域の方の協力があるから」、「PTAとの連携が良好であるから」、「従前から地域との協働活動を行っているから」の順に多かった。

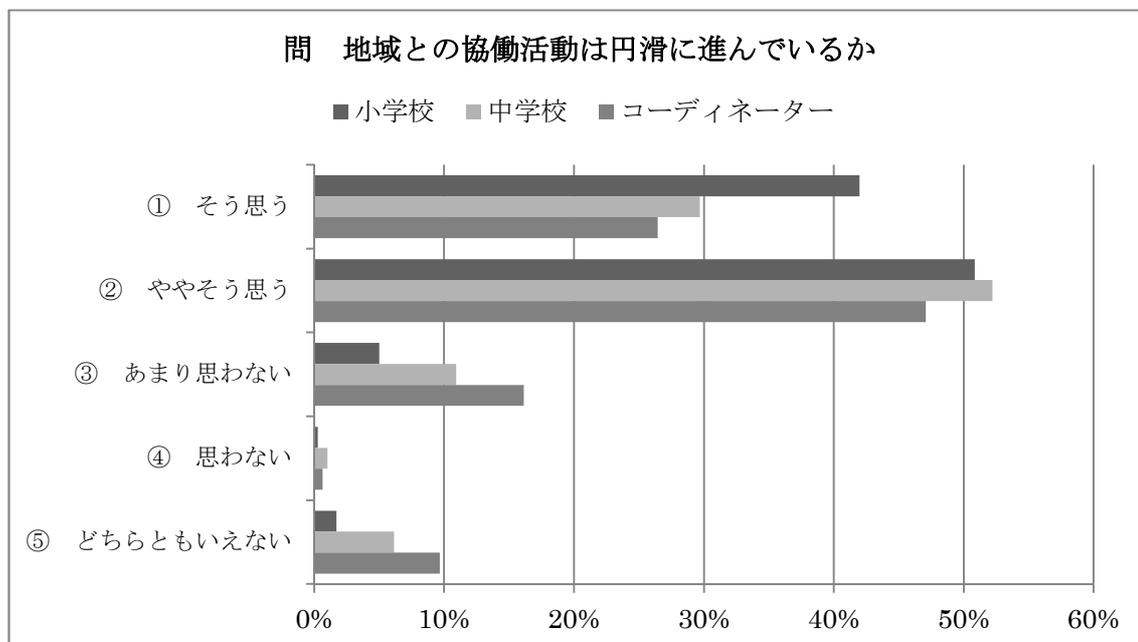
コーディネーターの回答では、地域のボランティアが多数いる（地域の方の協力がある）との回答が最も多いが、「教職員の理解が得られているから」との回答も半数近くあった。

「あまり思わない」、「思わない」との回答は、小学校で 5.3%、中学校では 11.9%、コーディネーターでは 16.7%であった。

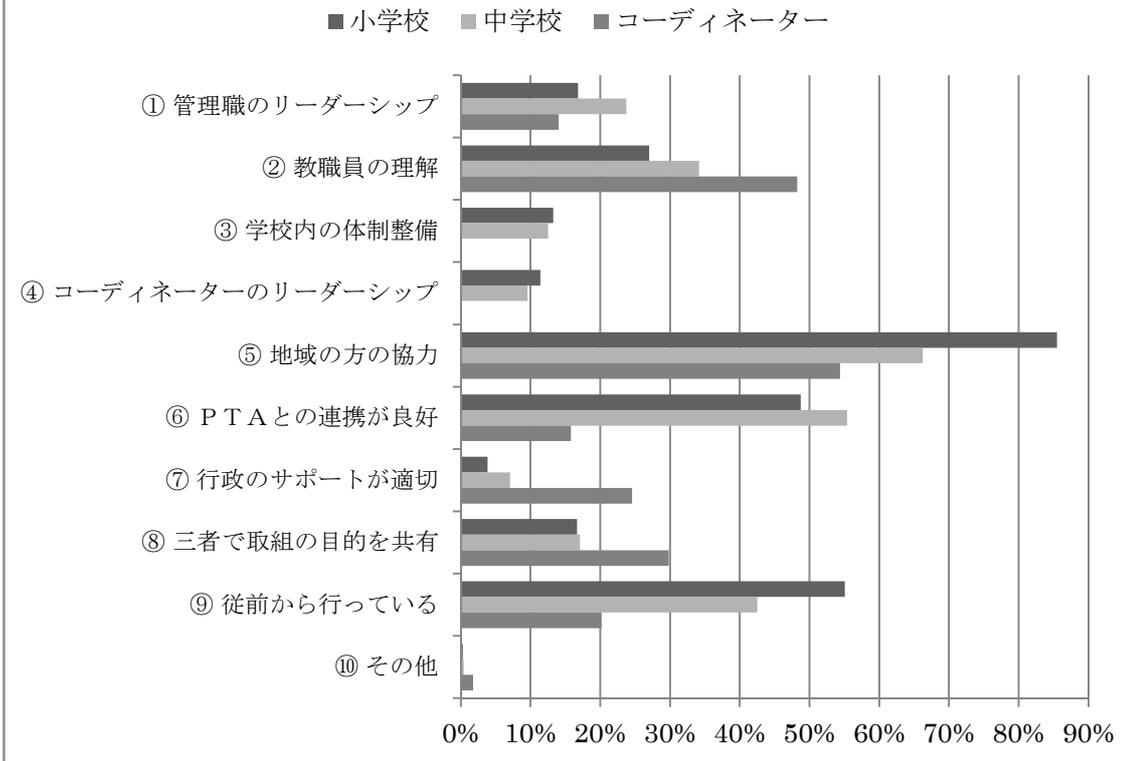
その要因としては、小中学校とも「教職員が行う余裕がないから」、「学校内の体制が十分整備されていないから」が多い。また、中学校では「学校・コーディネーター・地域などの間で取組の目的が共有できていないから」が 40.0%となっている。

コーディネーターの回答では、「学校・コーディネーター・地域などの間で取組の目的が共有できていないから」が 69.2%と最も多かった。次に「教職員の理解が不足しているから」が挙げられている。

円滑に進んでいないと思うコーディネーターが 16.7%おり、学校側の意識との間にずれがあることに留意すべきである。

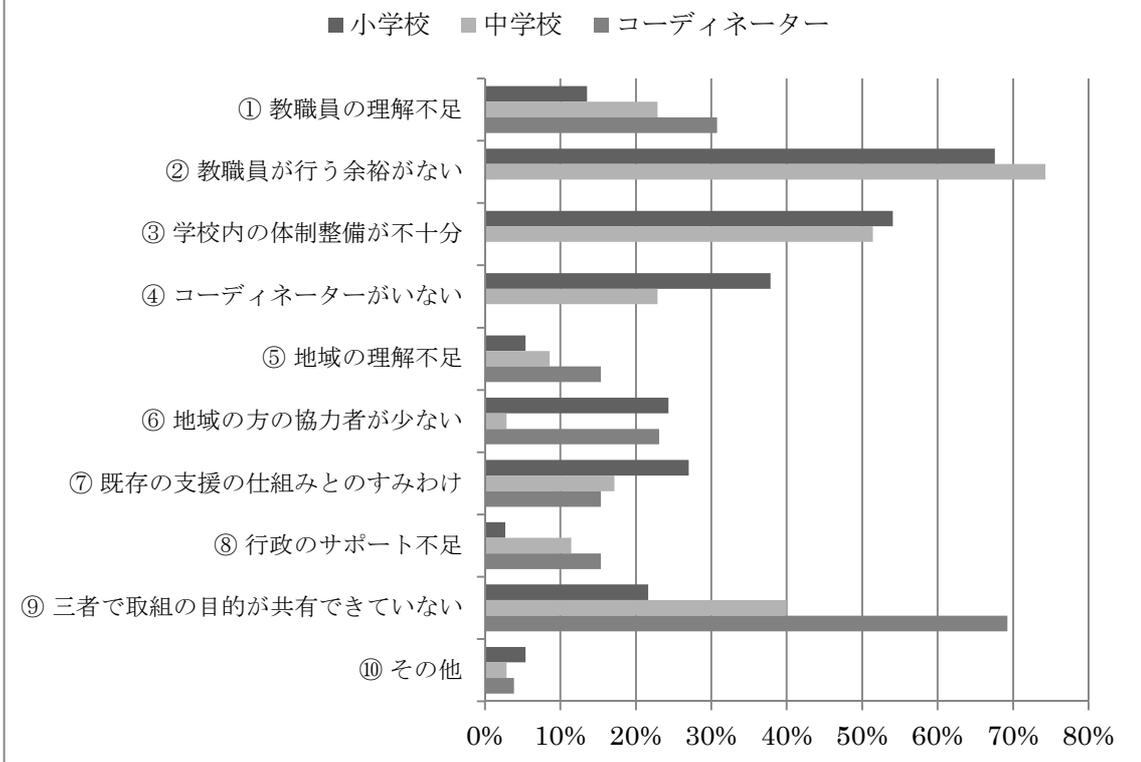


問 円滑に進んでいる、やや進んでいると回答した要因は



※ コーディネーター：③、④の選択肢なし

問 円滑に進んでいない、あまり進んでいないと回答した要因は



※ コーディネーター：②、③、④の選択肢なし

(6) 学校（地域）支援の取組を導入した当初のねらい、成果・効果について

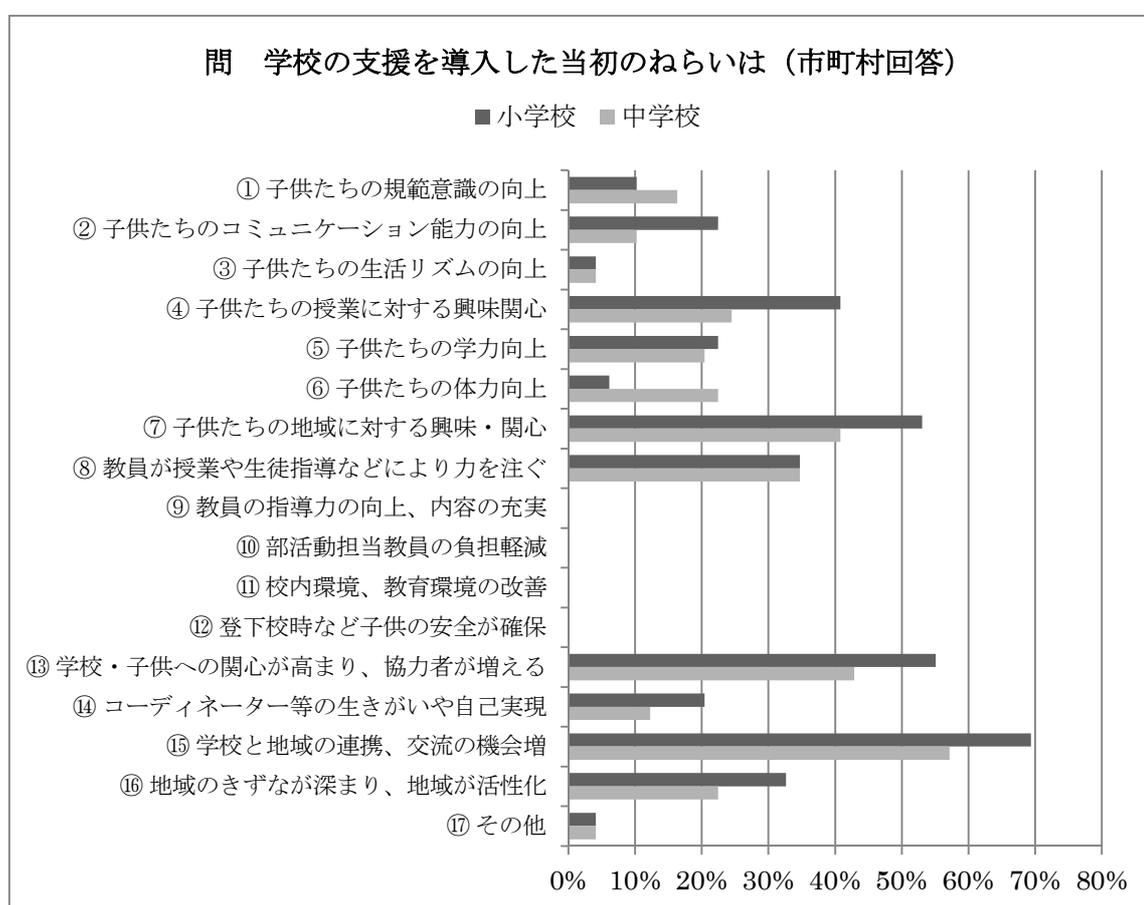
支援の取組を導入した当初のねらいとして、市町村が期待することとしては「学校と地域の連携が深まり、交流の機会が増える」との回答が多い。

小学校に対しては、「学校・子供に対する関心が高まり、協力者が増える」、「子どもたちの地域に対する興味・関心が高まる」、「子供たちの授業に対する興味関心が高まる」ことを挙げている。

また、中学校に対しては「教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができる」ことを期待する割合が小学校に比べ高い。

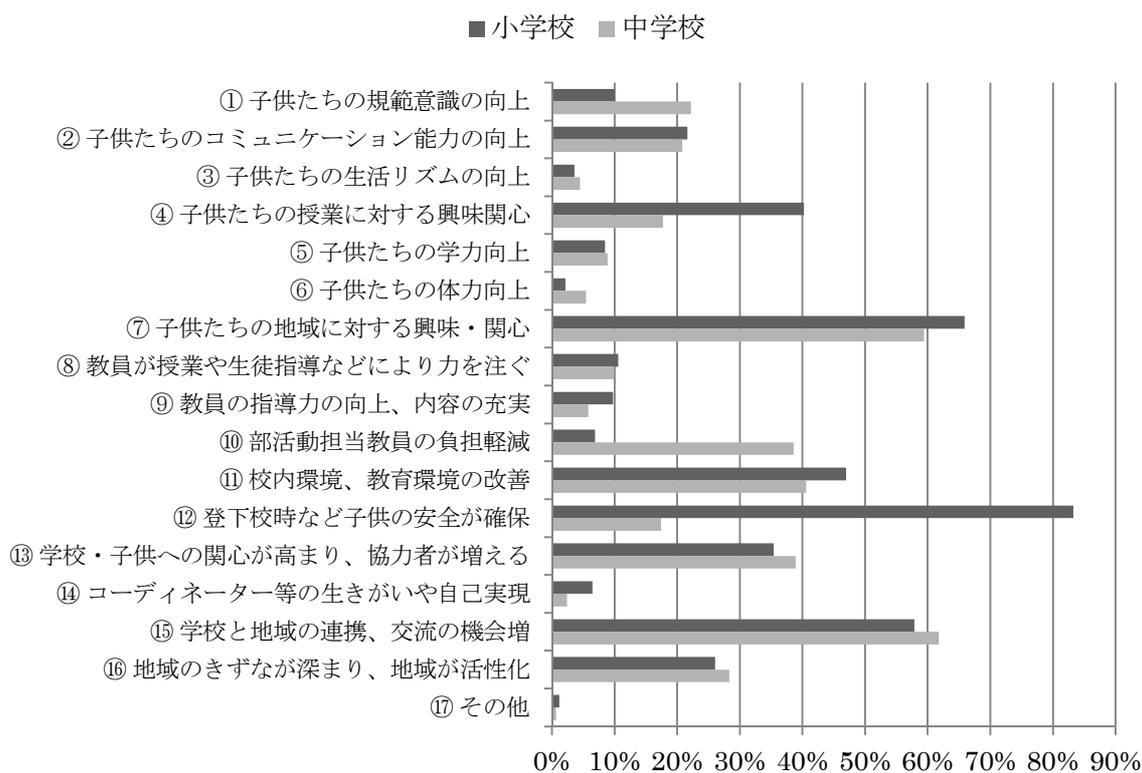
小学校の回答では「登下校時など子どもの安全が確保できる」ことを期待する割合が特に高い。全体的には市町村の回答と同様の傾向が見受けられる。

導入した成果・効果については、当初のねらいと大きな変化はない。

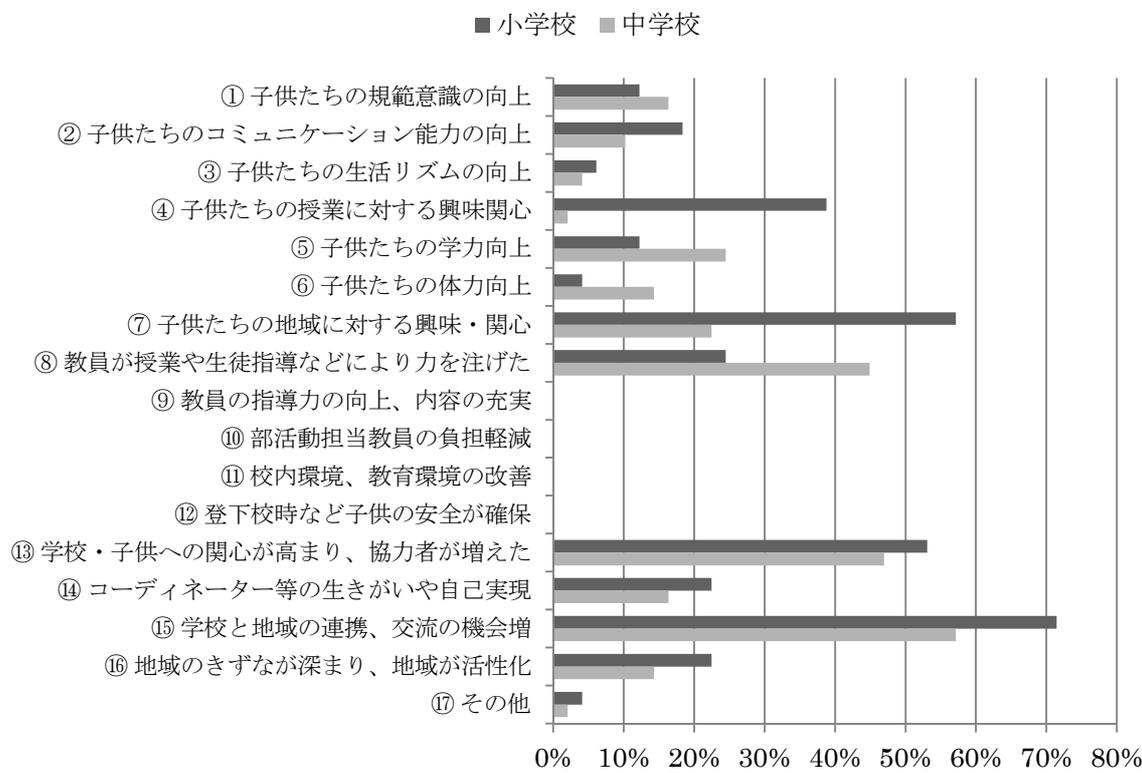


※ ⑨、⑩、⑪、⑫の選択肢なし

### 問 地域の支援を導入した当初のねらいは（小中学校回答）

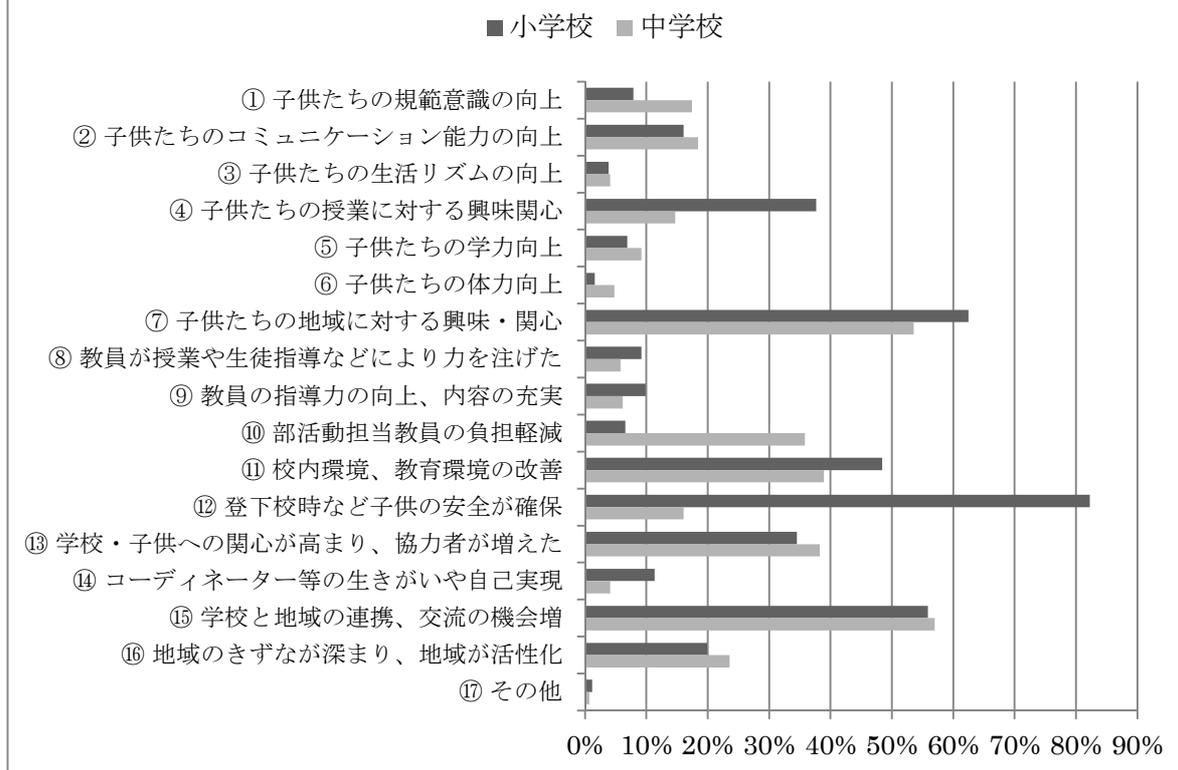


### 問 学校の支援を導入した成果・効果は（市町村回答）



※ ⑨、⑩、⑪、⑫の選択肢なし

### 問 地域の支援を導入した成果・効果は（小中学校回答）

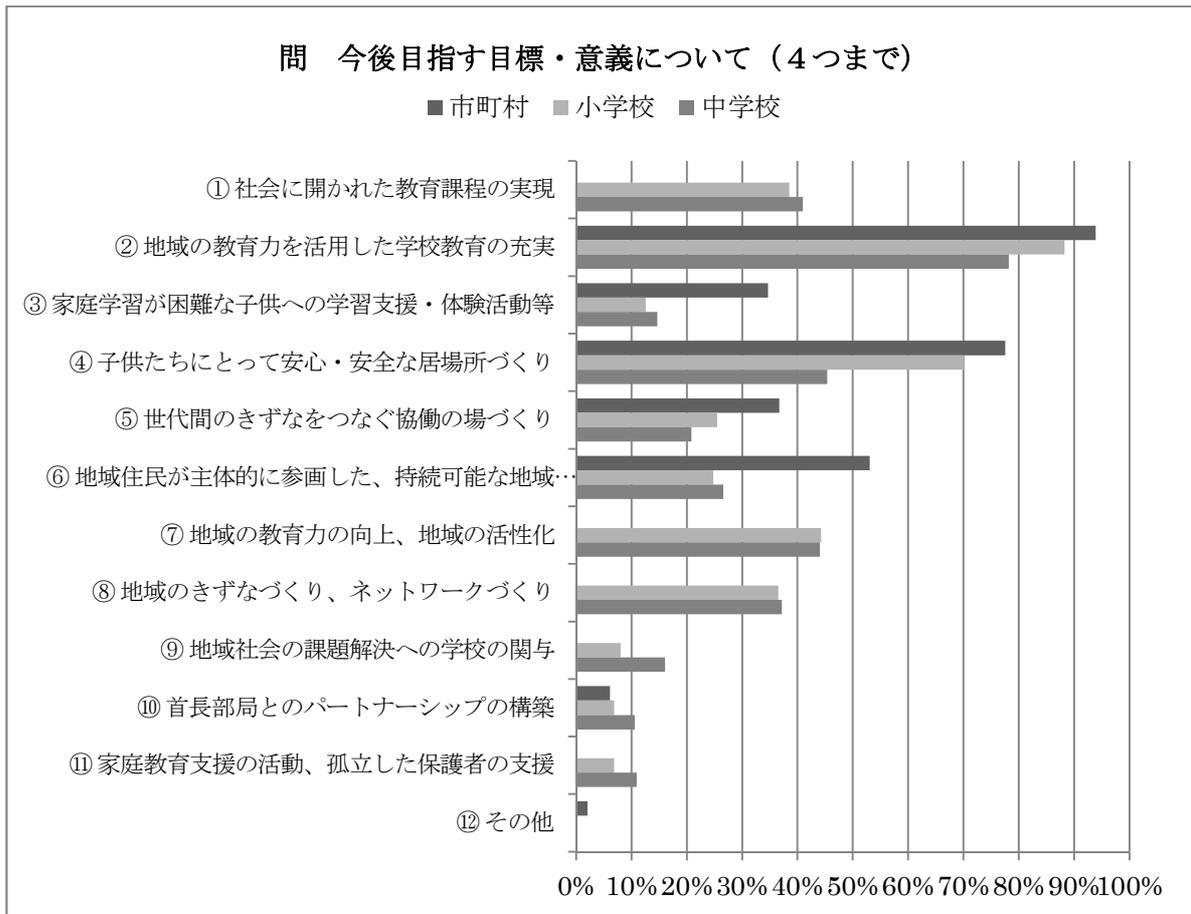


#### (7) 今後の協働活動の目指す目標・意義について

支援の取組を導入し進めているが、今後目指す目標・意義としては、市町村、小中学校とも「地域の教育力を活用した学校教育の充実」が最も多く挙げられている。続いて「子どもたちにとって安心・安全な居場所づくり」が多い。

また、市町村からの回答では「地域住民が主体的に参画することによる、持続可能な地域づくり」がその次に多く挙げられている。

小中学校からの回答では、「地域の教育力の向上、地域の活性化」、「社会に開かれた教育課程の実現」が順に多くなっている。



※ 市町村：①、⑦、⑧、⑨、⑪の選択肢なし

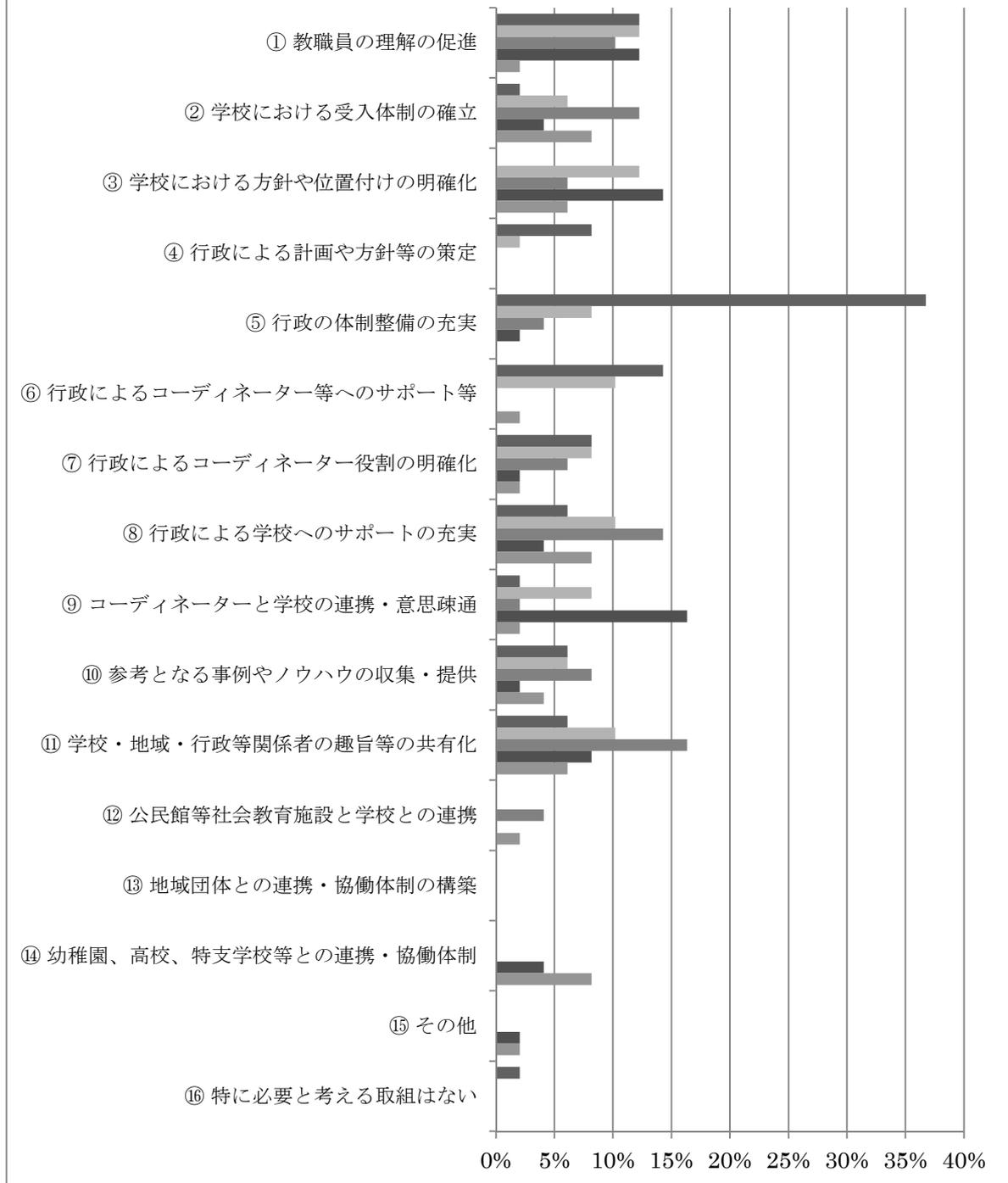
(8) 地域との協働活動を進めるために必要な取組について

地域との協働活動を進めるために今後必要だと考える取組について、市町村では「行政内の体制整備の充実」が一番重要だと考えられているが、教育計画等に位置付けがない市町村においては、「学校教職員の理解の促進」が一番重要であると考えられる市町村も多かった。

小中学校では「学校における地域との協働活動の方針や位置付けの明確化」、「教職員の理解の促進」が多くなっている。

問 今後必要だと考える取組は（市町村回答）

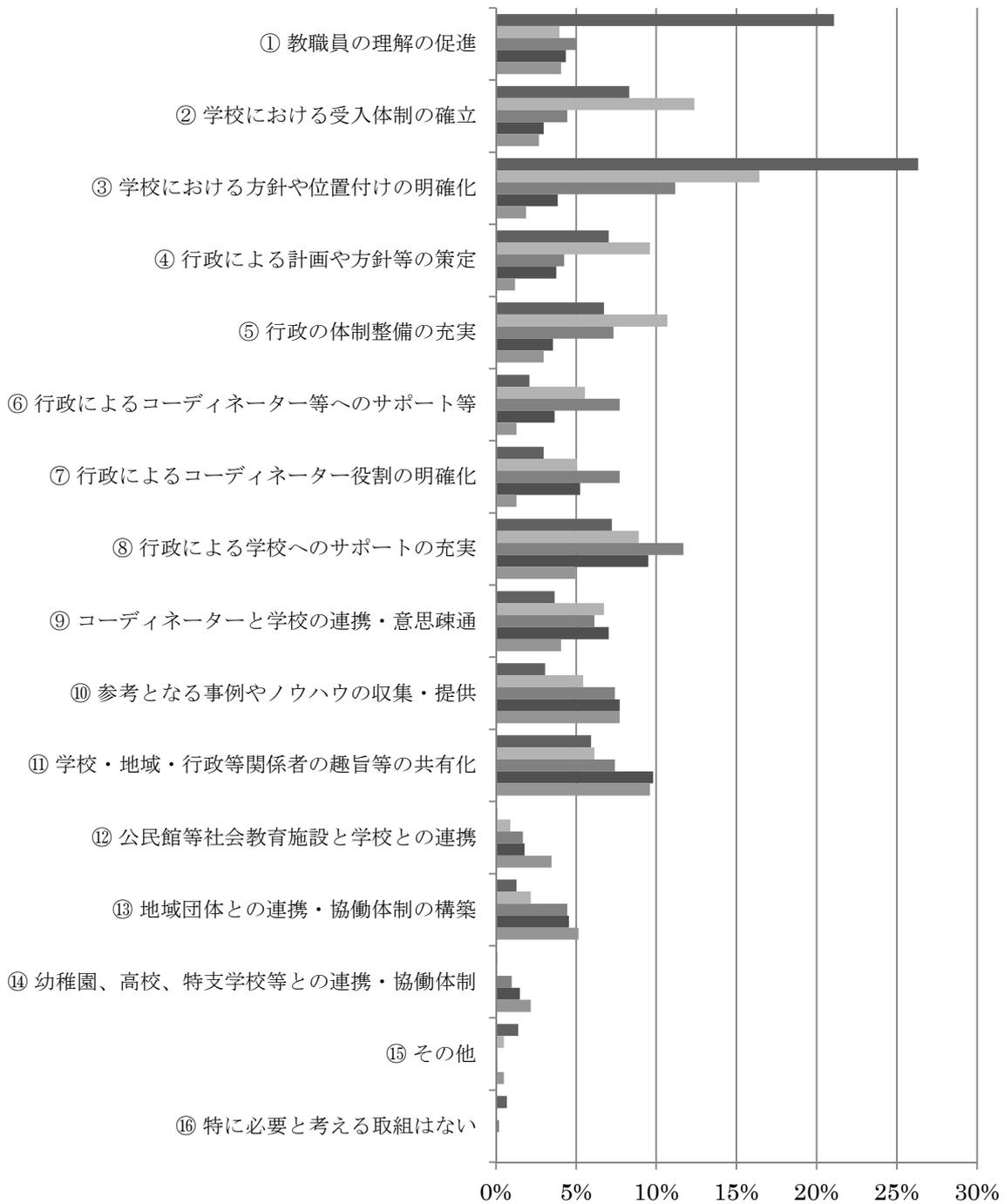
■ 第1位 ■ 第2位 ■ 第3位 ■ 第4位 ■ 第5位



※ ⑬の選択肢なし

問 今後必要だと考える取組は（小中学校回答）

■ 第1位 ■ 第2位 ■ 第3位 ■ 第4位 ■ 第5位



## 2 考察及び課題について

2か年にわたって、市町村、地域コーディネーター及び小中学校を対象に「地域と学校が連携・協働した取組に関する調査」を実施した。

市町村、小中学校とも協働活動の取組は進めているとの認識があり、地域差はあっても、地域と学校の関わりは深いと考える。

市町村においては、学校支援の所管課は学校教育担当課が多く、今後の協働活動の目指す目標・意義は「地域の教育力を活用した学校教育の充実」が最も多かった。

新学習指導要領の前文にある「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携する必要があり、社会教育からのアプローチも重要であると考えます。

地域学校協働活動の取組を推進させていくためには、市町村調査では「行政内の体制整備の充実」が最も必要とされているが、コーディネーター設置市町村においては、「学校教職員の理解の促進」が多いことに留意すべきである。コーディネーター調査においても「教職員が活動に理解があること」が最も多いことにも表れている。

校長・教頭の理解が課題とされており、校長・教頭研修に地域学校協働活動の研修を位置付けるとともに、今後の地域と学校の連携の在り方を教職員にも周知する必要がある。

小中学校調査では、「学校における方針や位置付けの明確化」、「教職員の理解」の順で必要だと考えられていることから、例えば、現存の学校評議員会や学校運営協議会を活用することにより、地域と学校が理念や方針を共有して連携・協働した取組の一層の充実につながることを期待される。

行政及び小中学校がコーディネーターに期待していることと、コーディネーターが大切だと考えている活動内容はほぼ一致しており、「地域支援者の発掘」や「地域支援者とのマッチング、活動計画立案等」が多い。

しかし、学校では現教職員、特に教頭がコーディネーターの役割を担っていることが多く、他の職務にも支障があり、さらなる負担につながることを懸念される。また、PTA関係者がその役割を担っているケースも多く、コーディネーターを「探していない」との回答が、市町村も同様に4割程度あることから、学校外に求めていることが想定される。

協働活動をさらに充実させるためには、元教職員の人脈を活用するなど、地域で活動しているコーディネーターとなり得る人材を見出すことが望まれる。

また、地域支援者の確保にあたっては、地域支援者自身の生きがいとなること、持続可能な社会づくりになることなどを周知することが、活動を積極的に行う動機づけとして効果的であると考えます。

地域学校協働活動の推進は、子どもたちの地域に対する興味関心を高めるとともに、

地域の学校や子どもたちへの関心の高まりにもつながり、相互にとって有益な関係が築かれ、持続可能な社会、地域の活性化に資するものであることを積極的に啓発すべきである。

また、調査結果からは公民館等社会教育施設との関わりが弱いことがみえてきた。

しかし、校区に公民館等社会教育施設が設置されている地域では、公民館施設との連携をすることで、地域と学校の協働活動がしやすくなるはずである。

さらに、地域で活動している方々が学校と連携することは地域の方にとってもやりがいになるとともに、子どもたちにとっては、高齢者を含む地域の方との交流が図られ、超高齢社会においても非常に重要であると考えている。

先に挙げた中教審答申の「おわりに」に次のような記載がある。全ての人にこの理念を共有してほしい。

「誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが『当事者』として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子供たちのために学校を良くしたい、元気な地域を創りたい、そんな『志』が集まる学校、地域が創られ、そこから、子供たちが自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来の姿である。」

### Ⅲ これからの方向性について（提言）

平成27年12月の中央教育審議会答申で、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進することや、同活動を推進する「地域学校協働本部」を全国的に整備することなどが提言された。

それを受け、社会教育法が改正され、教育委員会による地域住民等と学校との連携協力体制の整備などが定められた。地域と学校がパートナーとして連携・協働し、社会総がかりでの教育を実現するため、「地域学校協働活動」を円滑かつ効果的に実施することを通じ、学校運営の改善にも資することを目指している。

これまでに構築された地域と学校の相互理解と相互信頼を基盤として、地域学校協働本部へと体制を発展させるとともに、学校が地域に出て地域づくりを行い、それをしっかりと受け止められる地域社会があり、地域づくりをすることで子どもも大人も育つという構造を打ち出す必要がある。

学校と地域との連携については、それぞれの実情や規模などにより大きな差があり、相互のニーズにも違いがある。学校が地域と、また、地域が学校と協働して解決したい課題を、それぞれの地域性を見ながら解決していくことが大切である。

地域学校協働活動をよりよいものにしていくためには、地域との協働活動の方針や位置付けを明確にし、活動を展開していくことが必要である。

地域と学校が理念や方針を共有し地域学校協働活動を推進することは、子どもの成長はもとより、学校教育の充実、地域の教育力の向上、ひいては教員の多忙化解消にもつながっていくものである。

もって、市町村における地域と学校の協働の推進のために、以下について提言する。

#### （提言）

- 1 地域と学校をつなぐ「コーディネーター」及び複数のコーディネーターとの連絡調整等を行う「統括的なコーディネーター」を配置する。
- 2 コーディネーターが主体的に活動を展開することができるよう、活動拠点を設置し、地域学校協働本部等の体制を整備する。
- 3 県は、体制整備や取組の充実等のための財政的支援、コーディネーター等の資質向上のための研修会及び各市町村の好事例の収集や情報提供に努めるなど、市町村に対するさらなる活動支援を行う。

また、管理職を含めた教員への研修や多分野の方が参画する交流の場づくりなど、この活動内容を具体的にイメージできる機会を提供する。

## 資料編

- 平成28・29年度「地域と学校が連携・協働した取組」に関する調査票及び結果
  - ・ 市町村
  - ・ 地域コーディネーター
  - ・ 小中学校
  
- 愛知県生涯学習審議会社会教育分科会委員名簿
  
- 愛知県生涯学習審議会社会教育分科会審議経過

## 地域と学校が連携・協働した取組に関する調査票

用語について：この調査では下記の用語を下記の意味で用いていますので、ご注意ください。

【地域と学校の協働活動】：地域の人材、NPO等が学校と連携・協力して、学校の授業や行事等の教育活動をはじめ、校舎や校庭の維持・管理、児童生徒の安全確保、放課後や土曜日の教育活動、家庭教育支援活動など、学校における教育を直接・間接を問わず支援し、地域を創生する活動を指す。

【コーディネーター】：学校のニーズに基づき、地域人材等（ボランティア）と学校の橋渡し役として、効果的に地域と学校との協働活動が行われるようコーディネートを担当する人を指す。

【地域支援者】：学校を支援する地域やNPOのボランティアを指す。

市町村名		#N/A
回答担当課		
担当者名		
連絡先電話		
連絡先メール		

※ 地域と学校の協働活動が一部の学校での取組でも、取り組まれているとして回答してください。

問	質問項目
---	------

回答欄
-----

黄色セル：プルダウンリスト選択

1 貴市町村では、小中学校において地域と学校の協働活動の取組を進めていますか。

- ①はい      ②いいえ

※ 「いいえ」を選択した場合は、問1 2以降に進んでください。

--

2 貴市町村において、地域と学校の協働活動を主に所管する課名を該当番号欄に記入してください。（1つ）

- ①社会教育所管課  
②学校教育所管課  
③その他（子育て支援課等）  
④決まっていない（今後検討）

- ①  
②  
③  
④

名称

3 貴市町村において、地域と学校の協働活動の取組を進めることを市町村の教育（振興）計画等に位置付けていますか。

- ①はい      ②いいえ

--

4 貴市町村で地域と学校の協働活動として取り組まれている活動について、小中学校それぞれ該当する番号を選択してください。（いくつでも）

- ①授業補助  
②読み聞かせ・読書活動  
③部活動指導  
④校内環境整備（校庭維持管理・図書室整備等）  
⑤子供の安全確保  
⑥学校行事等の運営支援  
⑦無料塾（地域未来塾）  
⑧放課後子ども教室  
⑨土曜日の教育活動  
⑩家庭教育支援  
⑪その他（具体的に）  
⑫特に重点的に取り組んでいる活動はない

小学校	中学校
「その他」の内容記入欄↓	

5 貴市町村では、地域と学校の協働活動を進める役割を社会教育主事が担っていますか。

- ①はい      ②いいえ      ③社会教育主事未設置

--

6 貴市町村に地域と学校の協働活動を進めるコーディネーターを置いていますか。

- ①はい      ②いいえ

※「いいえ」を選択した場合は、問9以降に進んでください。

--

7 貴市町村が地域と学校の協働活動のコーディネーターの活動内容として期待していることについて、該当する番号を選択してください。（いくつでも）

- ①地域支援者の発掘
- ②地域支援者のマッチング・活動計画立案・日程調整等
- ③地域支援者向け説明会・研修の企画・実施
- ④地域と学校の協働活動の広報・普及活動
- ⑤地域と学校の協働活動に関わる活動記録等作成
- ⑥企業・NPO等と連携した授業支援プログラムの情報収集・企画・提案
- ⑦地域と学校の協働活動に関する運営委員会等への出席
- ⑧地域と学校の協働活動に必要な用品等の調達
- ⑨学校・子供や地域のニーズ・状況把握
- ⑩その他（具体的に）

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
「その他」の内容記入欄↓	

8 問4①～⑦までのコーディネーターは放課後子ども教室や土曜日の教育活動のコーディネーターを兼務していますか。

- ①はい      ②いいえ

放課後子ども 教室	土曜日の教育 活動

9 コーディネーター候補者及び地域支援者をどのように発掘しているか、該当する番号を選択してください。（いくつでも）

- ①「人材バンク」等登録情報の活用
- ②市町村のホームページや広報誌での募集
- ③学校のホームページや広報誌での募集
- ④教職員からの紹介
- ⑤PTAからの紹介
- ⑥地域団体等からの紹介
- ⑦コーディネーターの紹介
- ⑧公民館職員・社会教育主事からの紹介
- ⑨公民館講座のグループに依頼
- ⑩社会教育委員等行政委嘱委員経験者から推薦
- ⑪企業からの紹介
- ⑫その他（具体的に）
- ⑬特に探していない

コーディネーター	地域支援者
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	
⑬	
「その他」の内容記入欄↓	

10 貴市町村内には、コーディネーターや地域支援者が自主的に実施している組織や活動がありますか。それぞれ該当する番号を選択してください。（いくつでも）

- ①連絡会を実施
- ②交流会を実施
- ③研修会を実施
- ④会報や広報紙を発行
- ⑤メーリングリストやSNS等ITを活用した情報交換
- ⑥その他（具体的に）
- ⑦把握していない

コーディネーター	地域支援者
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
「その他」の内容記入欄↓	

11 貴市町村において、学校支援の取組を導入した当初のねらい、また、現時点での導入した成果・効果について、小中学校それぞれに該当する主なものを選択してください。（5つまで）

- ①子供たちの規範意識の向上につながる（つながった）
- ②子供たちのコミュニケーション能力の向上につながる（つながった）
- ③子供たちの生活リズムの向上につながる（つながった）
- ④子供たちの授業態度の向上につながる（つながった）
- ⑤子供たちの授業に対する興味関心が高まる（高まった）
- ⑥子供たちの学力向上につながる（つながった）
- ⑦子供たちの体力向上につながる（つながった）
- ⑧子供たちの地域に対する興味・関心が高まる（高まった）
- ⑨教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができる（できた）
- ⑩学校・子供に対する関心が高まり、協力者が増える（増えた）
- ⑪コーディネーター・地域支援者自身の生きがいや自己実現につながる（つながった）
- ⑫学校と地域の連携が深まり、交流の機会が増える（増えた）
- ⑬地域のきずなが深まり、地域が活性化する（した）
- ⑭その他（具体的に）

小学校		中学校	
当初のねらい	現時点成果等	当初のねらい	現時点成果等
1			
2			
3			
4			
5			
「その他」の内容記入欄↓			

12 貴市町村において、今後の地域と学校の協働活動の目指す目標・意義について、該当する主なものを選択してください。（4つまで）

- ①地域社会の課題解決に、地域の一員としての学校の関与
- ②地域の教育力を活用した学校教育の充実
- ③家庭での学習が困難な子供たちへの学習支援や体験活動の機会の充実
- ④子供たちにとって安心・安全な居場所づくり
- ⑤世代間のきずなをつなぐ協働の場づくり
- ⑥地域住民が主体的に参画することによる、持続可能な地域づくり
- ⑦生涯学習社会の構築
- ⑧地域振興、社会福祉、防災等を担当する首長部局とのパートナーシップの構築
- ⑨その他（具体的に）

1	
2	
3	
4	
「その他」の内容記入欄↓	

13 地域と学校の協働活動を推進させていくために、貴市町村において、今後、どのような取組が必要だと考えていますか。特に必要だと考えるものを選択してください。（必要と考える順に5つまで）

- ①行政における地域と学校の協働活動に関する計画や方針等の策定
- ②行政内の体制整備の充実
- ③行政によるコーディネーターへの資質向上・サポートの充実
- ④行政としてのコーディネーターの位置づけ・役割の明確化
- ⑤行政としての学校へのサポートの充実
- ⑥行政による地域支援者への資質向上・サポートの充実
- ⑦学校教職員の理解の促進
- ⑧学校における受入体制の確立の促進
- ⑨学校における地域と学校の協働活動の方針や位置づけの明確化
- ⑩コーディネーターと学校の連携・意思疎通の促進
- ⑪参考となる事例情報やノウハウ・ツールの収集・提供の充実
- ⑫学校・地域・行政等関係者の学校支援活動の趣旨等の共有化の促進
- ⑬公民館等社会教育施設と学校との連携
- ⑭様々な悩み等を相談できる家庭教育支援の活動や機能を組み込み、孤立した保護者を支援
- ⑮幼稚園、高等学校、特別支援学校等との連携・協働体制の構築
- ⑯その他（具体的に）
- ⑰特に必要となる取組はない

1	
2	
3	
4	
5	
「その他」の内容記入欄↓	

14 貴市町村の学校教職員に対して地域と学校の協働活動の理解を促進するために重要と考えるものを選択してください。（重要と考える順に3つまで）

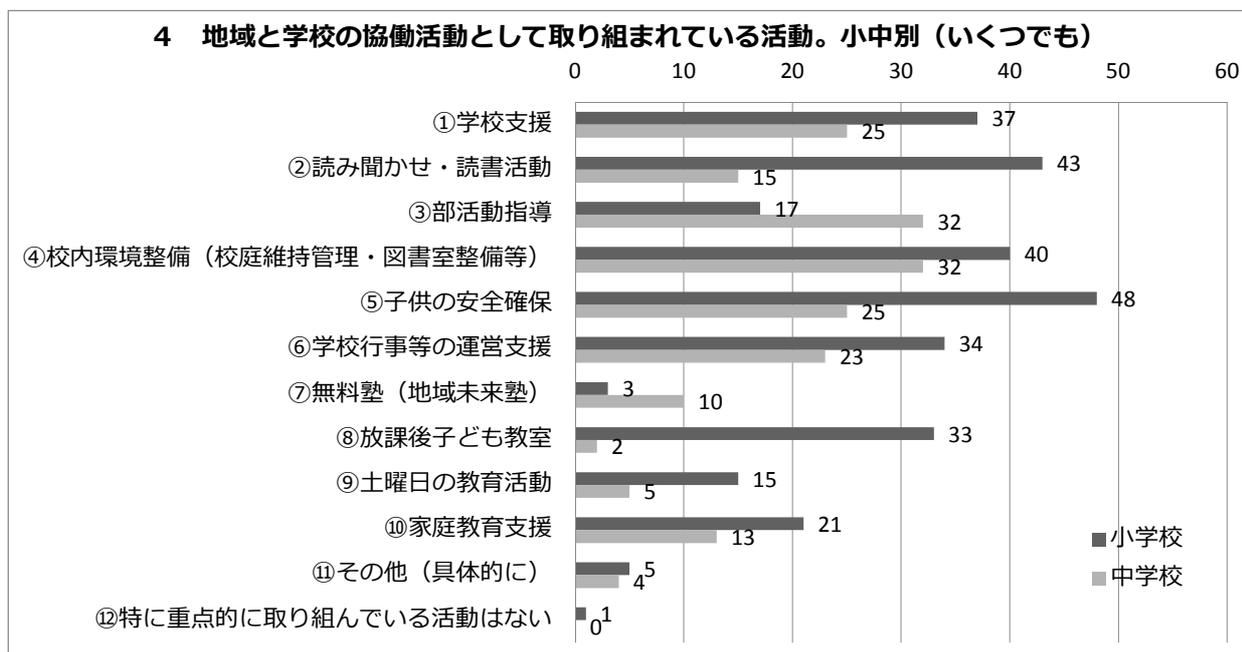
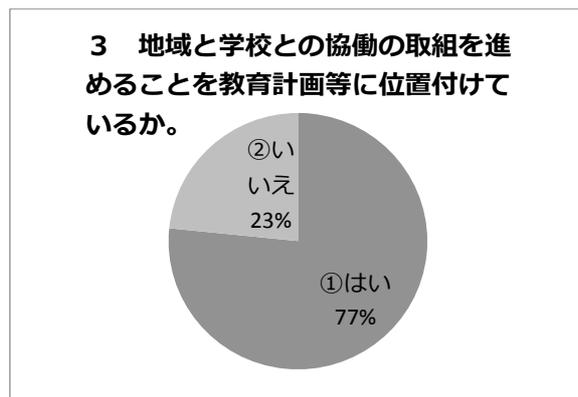
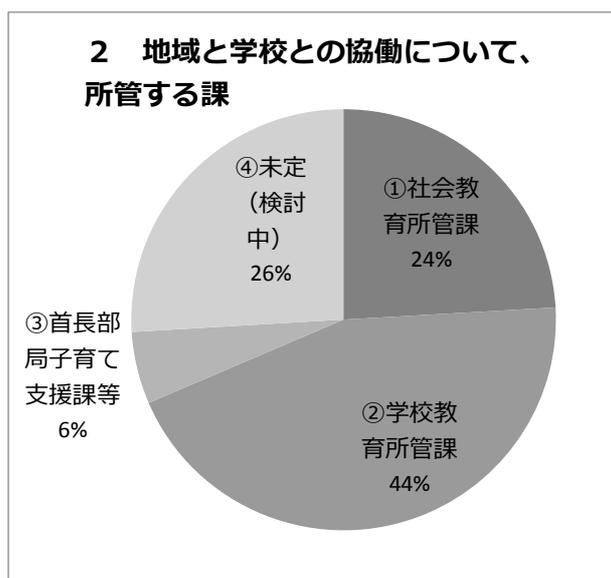
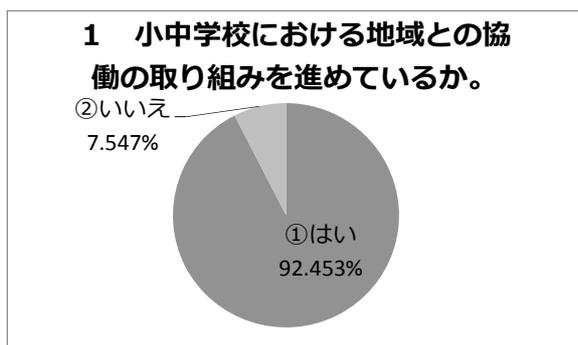
- ①教員等研修で地域と学校の協働活動に関する啓発
- ②地域と学校の協働活動に関する事例や情報等をまとめた資料の作成・周知
- ③学校に訪問して啓発
- ④地域連携担当教職員を対象とした連絡会の開催
- ⑤校長・教頭の理解
- ⑥PTAへの働きかけ
- ⑦地域と学校の協働に関するシンポジウムや発表会の開催
- ⑧その他（具体的に）

1	
2	
3	
「その他」の内容記入欄↓	

15 問1で②「いいえ」を選択した市町村のみ回答してください。  
貴市町村が、現在、地域と学校の協働活動に取り組んでいない主な理由について、記入してください。

--

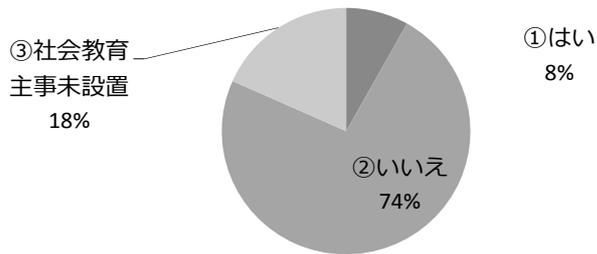
## 地域と学校が連携・協働した取組に関する調査結果



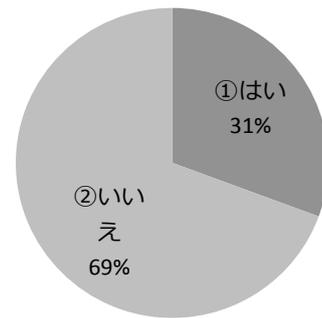
### その他

- ・ 教員研修の講師
- ・ 子ども会議への参加、防災教室の実施、地域の方を講師とした講座の実施
- ・ 避難所体験活動（小学校） ・ 中学生ボランティアによる活動支援
- ・ 地域がその地域にある小学校の部屋を夏休み期間中に活用して、小学生の宿題の場を提供するとともに地域と子どもの交流を図る取組を行っている。
- ・ 外国人生徒支援として日本語を指導している。
- ・ 学校を核とした地域魅力化事業の実施

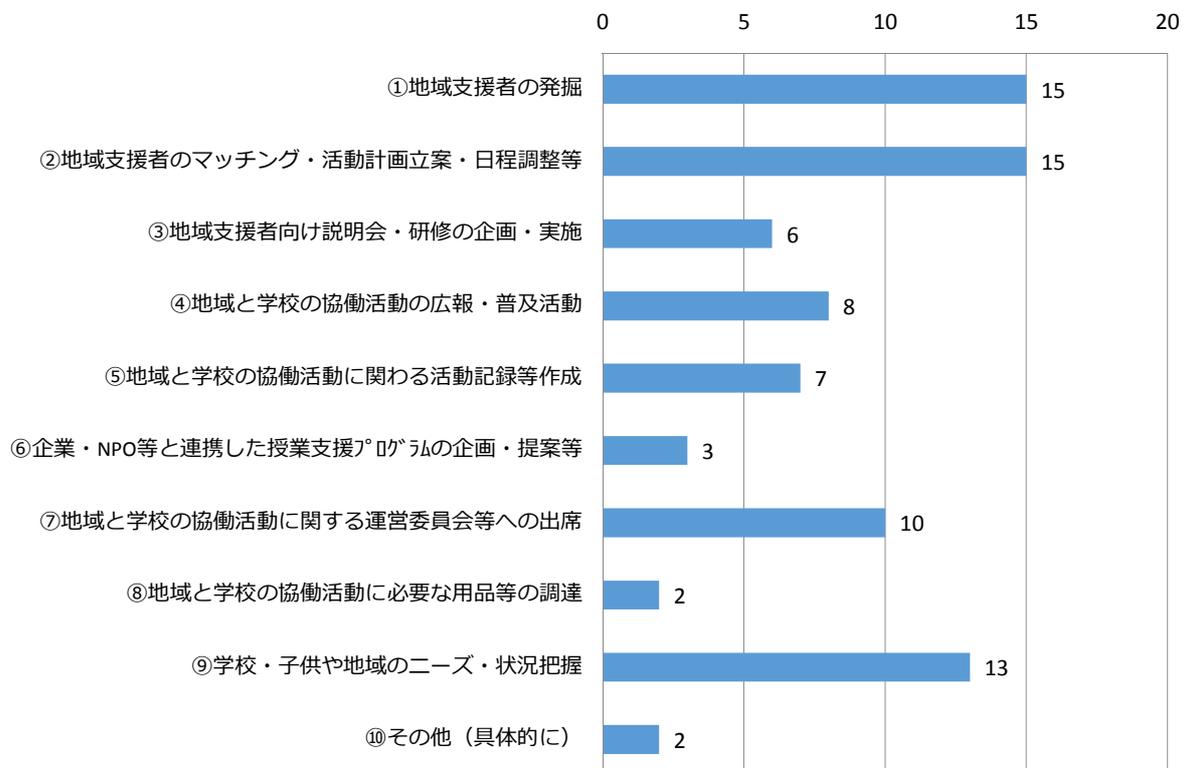
**5 地域と学校の協働活動を進める役割を社会教育主事が担っているか。**



**6 地域と学校の協働活動を進めるコーディネーターを置いているか。**



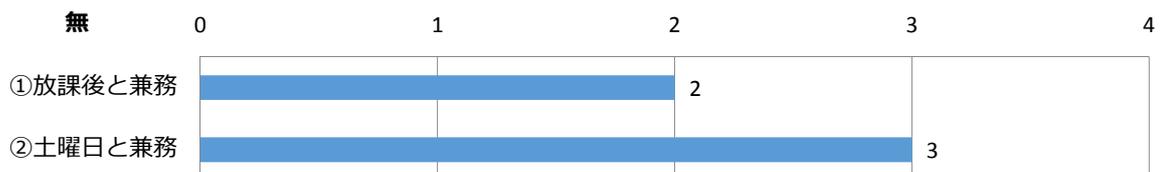
**7 コーディネーターの活動内容として期待していること（いくつでも）**



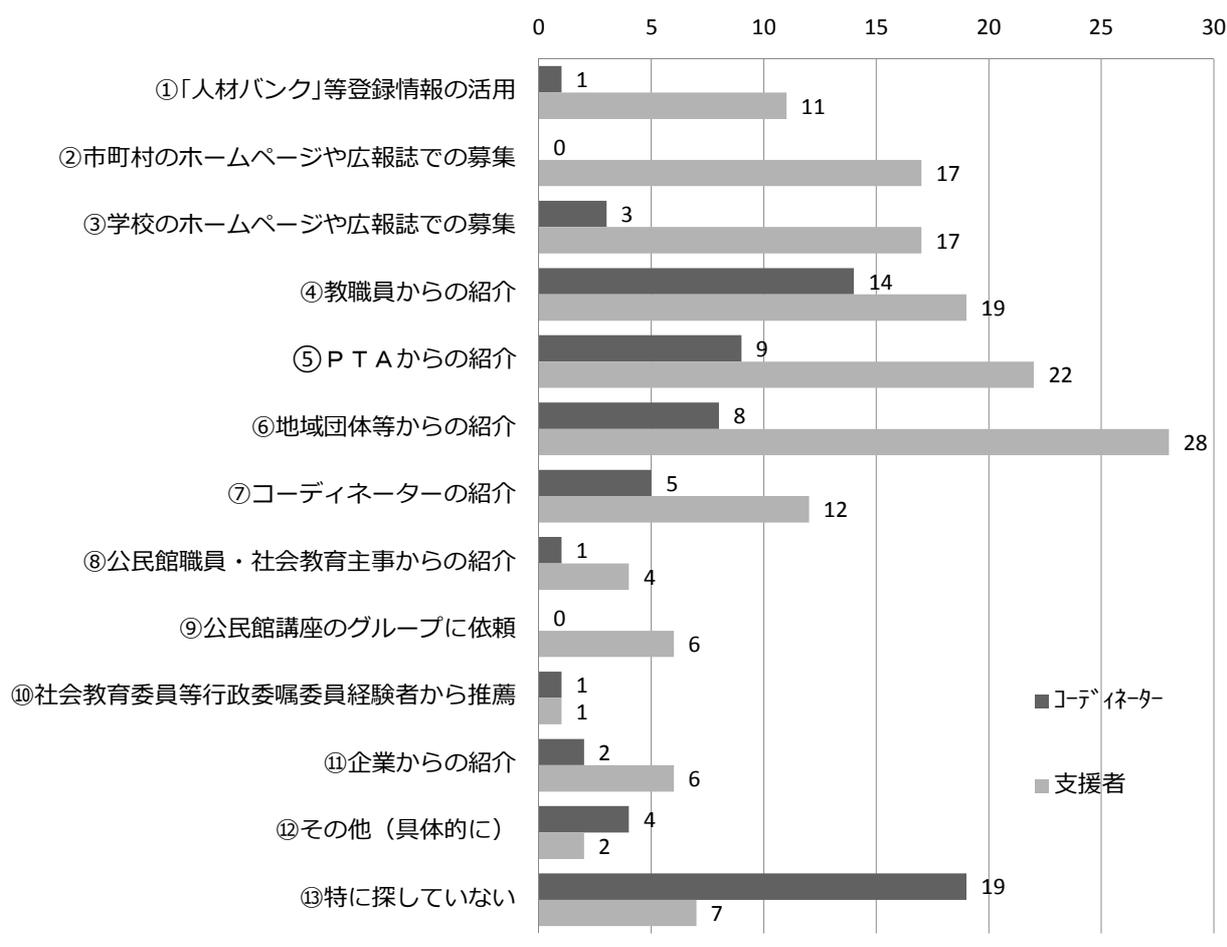
**その他**

- ・コーディネーターと学校と年間活動計画等についての打合せの実施
- ・大学生ボランティアの募集・登録を行い、各小中学校に派遣している。

**8 問4①～⑦までのコーディネーターの放課後子ども教室や土曜日の教育活動の兼務の有**



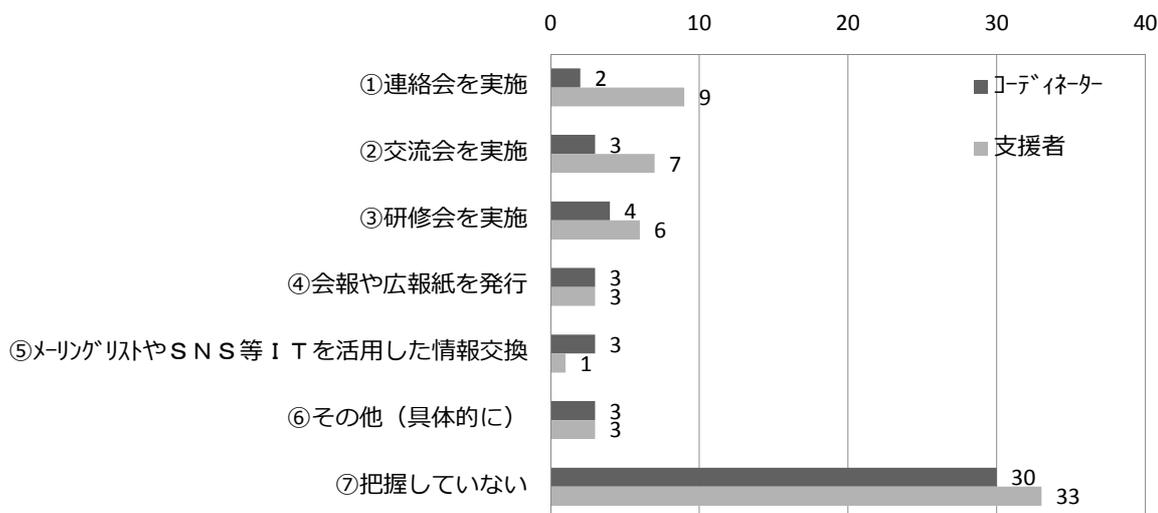
### 9 コーディネーター候補者及び地域支援者の発掘方法（いくつでも）



#### その他

- ・コーディネーターは候補者を選んだあと、講座等を開設し養成していく。
- ・積極的にボランティア活動されている方からの人選
- ・市役所の他部署からの紹介

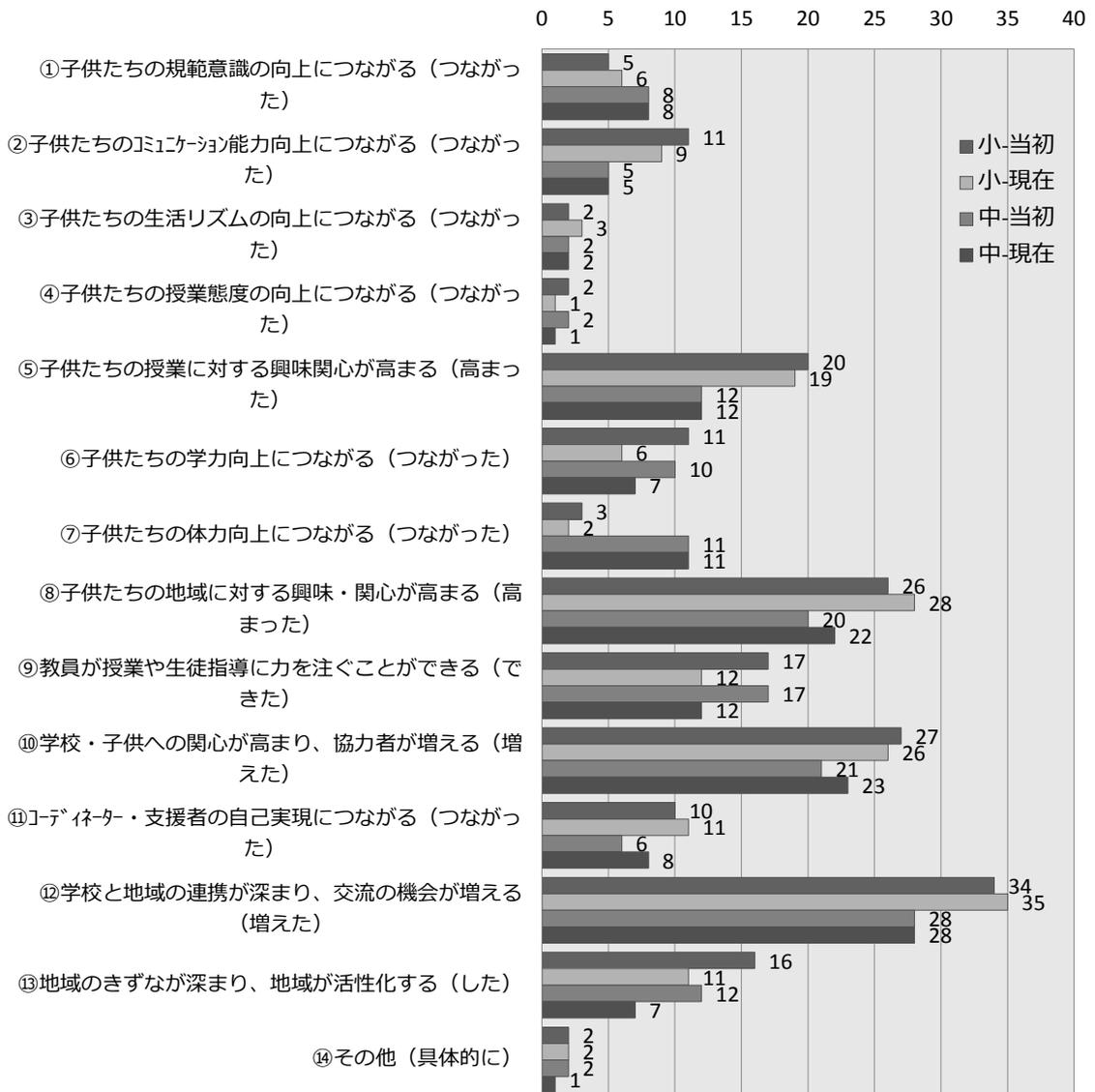
### 10 コーディネーターや地域支援者間の自主的な組織や活動があるか。（いくつでも）



#### その他

- ・NPOを立ち上げ、児童の健やかな成長を目的に様々な活動を行っている。
- ・他校や他市町のコーディネーターとの情報交換を兼ねた交流

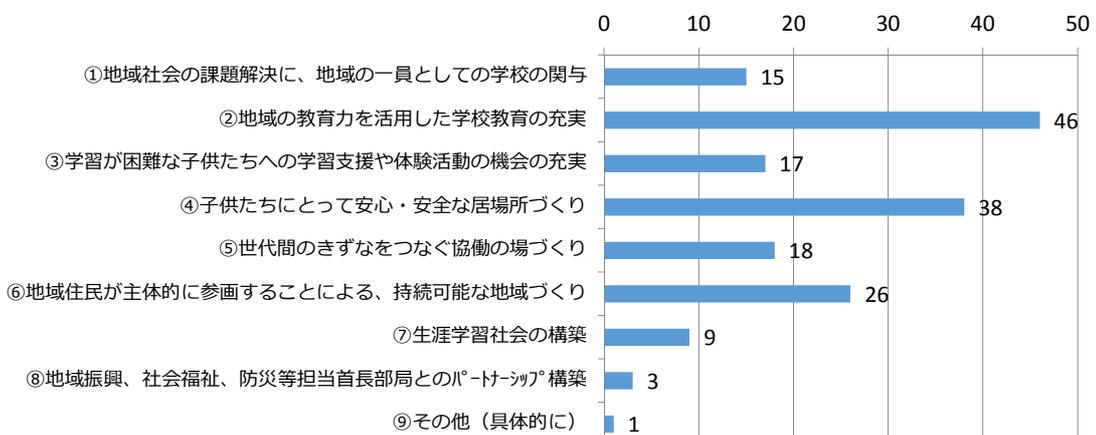
### 1 1 学校支援の取組を導入した当初のねらい、また、現時点での導入した成果・効果（5つまで）



その他

- ・安全安心な学校づくり
- ・キャリア教育により生き方を学ぶことができた

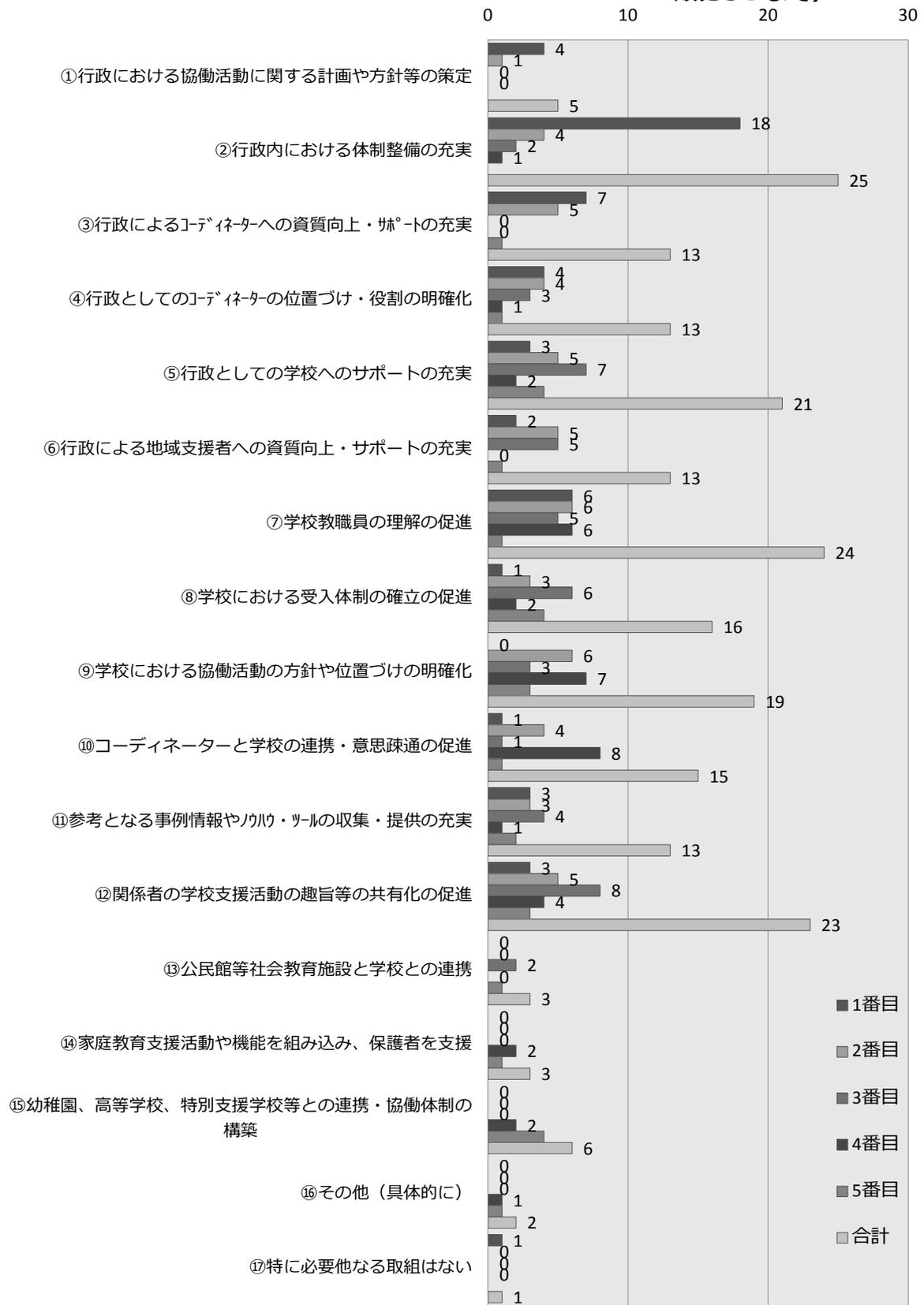
### 1 2 今後の地域と学校の協働活動の目指す目標・意義（4つまで）



その他

- ・学校を核とした街づくり
- ・コミュニティハウスを各地区に整備予定（子育て支援課）

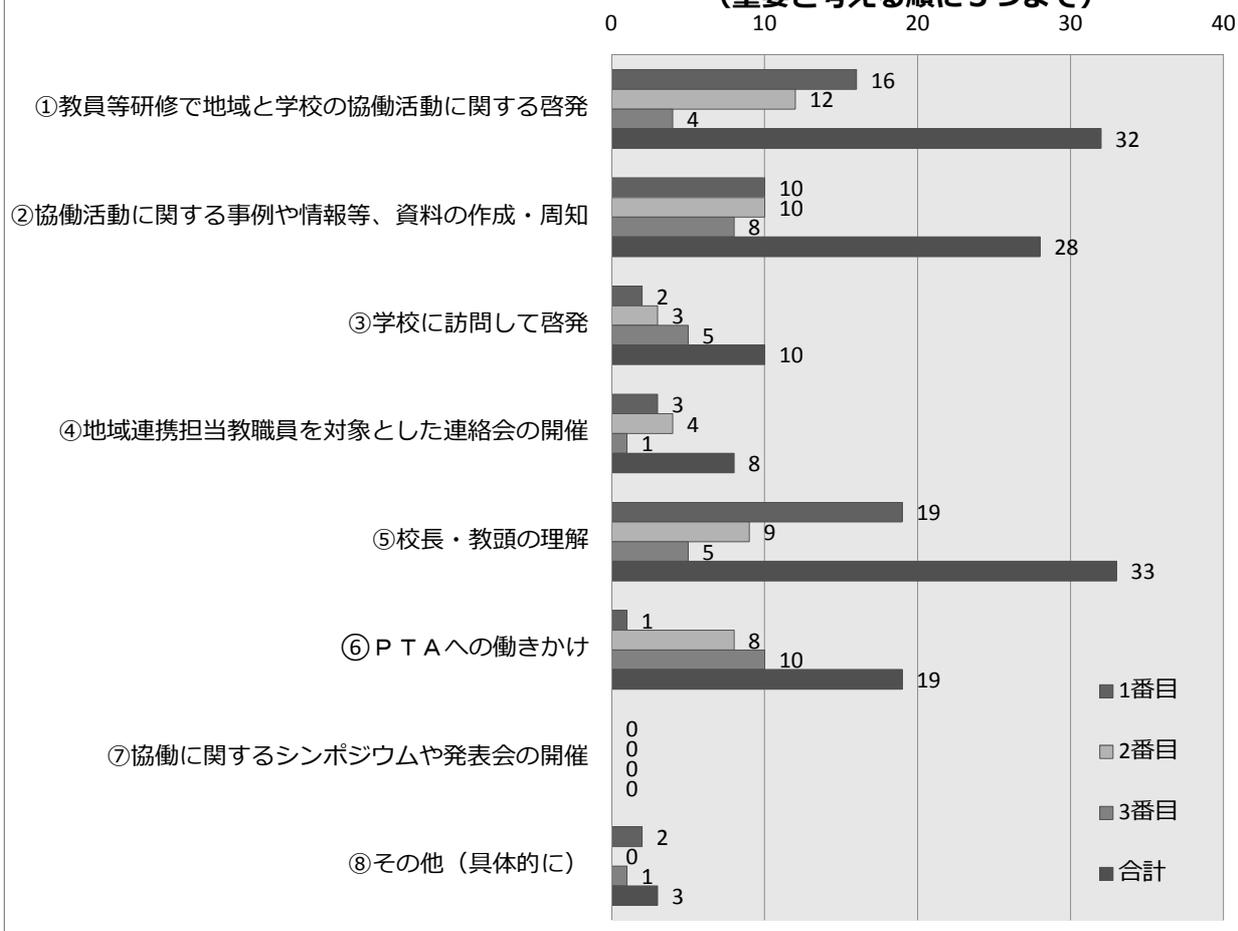
### 1.3 地域学校協働活動の取組を推進させていくための方策（必要と考える順に5つまで）



#### その他

- ・学校のニーズに合ったボランティアの人材発掘、ボランティアの方の意欲及びモチベーションの維持・向上のための支援
- ・地域全体へ地域で学校を支えるという意識付けの促進

## 14 学校教職員に対して地域学校協働活動の理解を促進するための方策 (重要と考える順に3つまで)



### その他

- ・学校教職員及びPTAへの協力・理解促進のための研修会の実施
- ・管理職の地域理解とチーム学校を意識したリーダーシップが最も重要だと考える。
- ・日常的な連携の充実
- ・学校に負担がかからないようにすること。

## 15 現在、地域と学校の協働活動に取り組んでいない主な理由

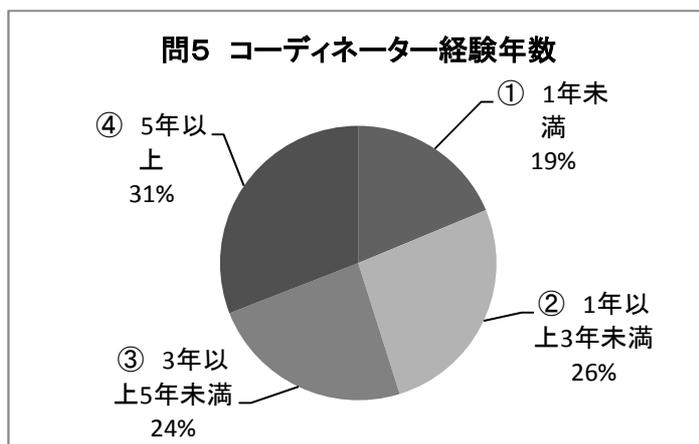
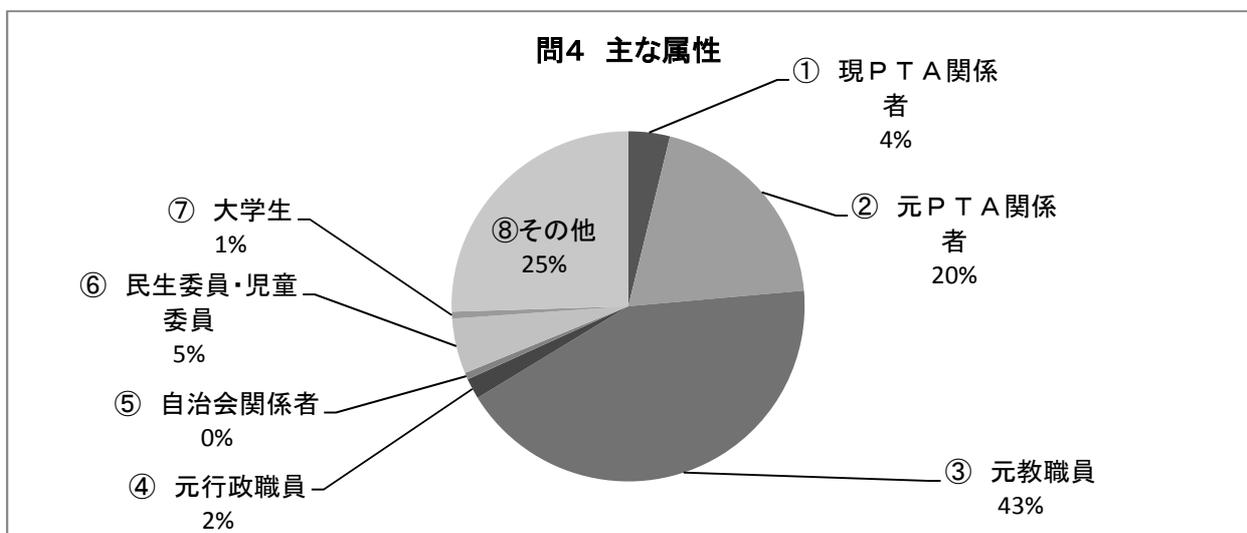
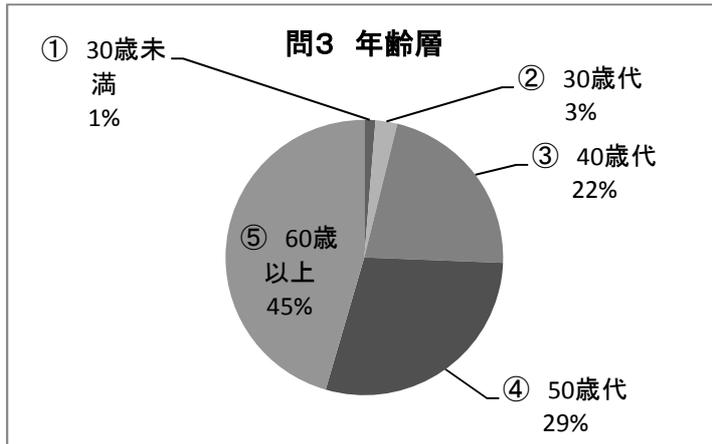
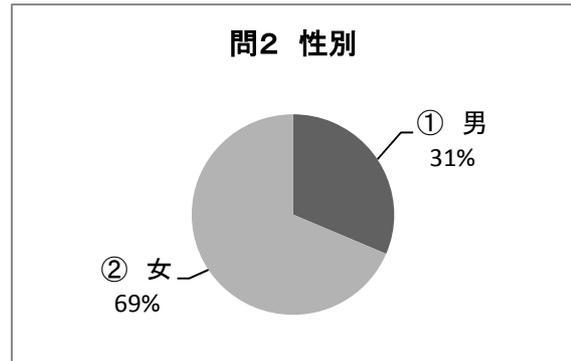
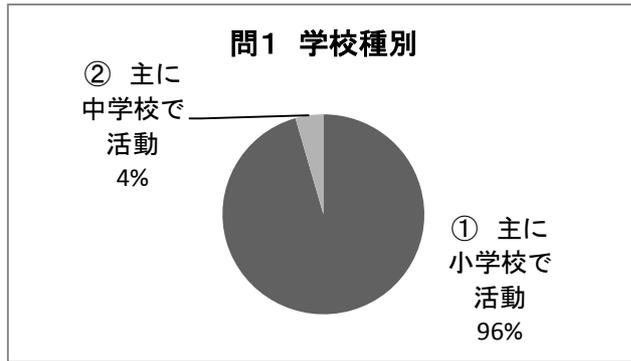
- ・多世代が交流し、支え合い、分かち合える地域社会を目指しており、学校限定では、取り組んでいない。
- ・これまでも地域の方と学校が連携した様々な取り組みを行っています。ですから、あえて地域コーディネーターや地域支援者による協働活動を行う予定はない。
- ・予算的・人員配置的に取り組める状況にない。
- ・民俗行事を基盤とした社会資本が地域にあり、比較的地域での子どもの見守り体制が整っていること。そのために、地域と学校の協働活動への取り組みがあまり重要視されていないため。
- ・中学生に対し、寮にて企画するナイトサークルへ生徒が希望する種目を行っている住民が指導を行う他、小学生に対し文化協会員が太鼓を教えるなどの活動を行っているが、本調査に該当するほどの体制及び規模ではないため。

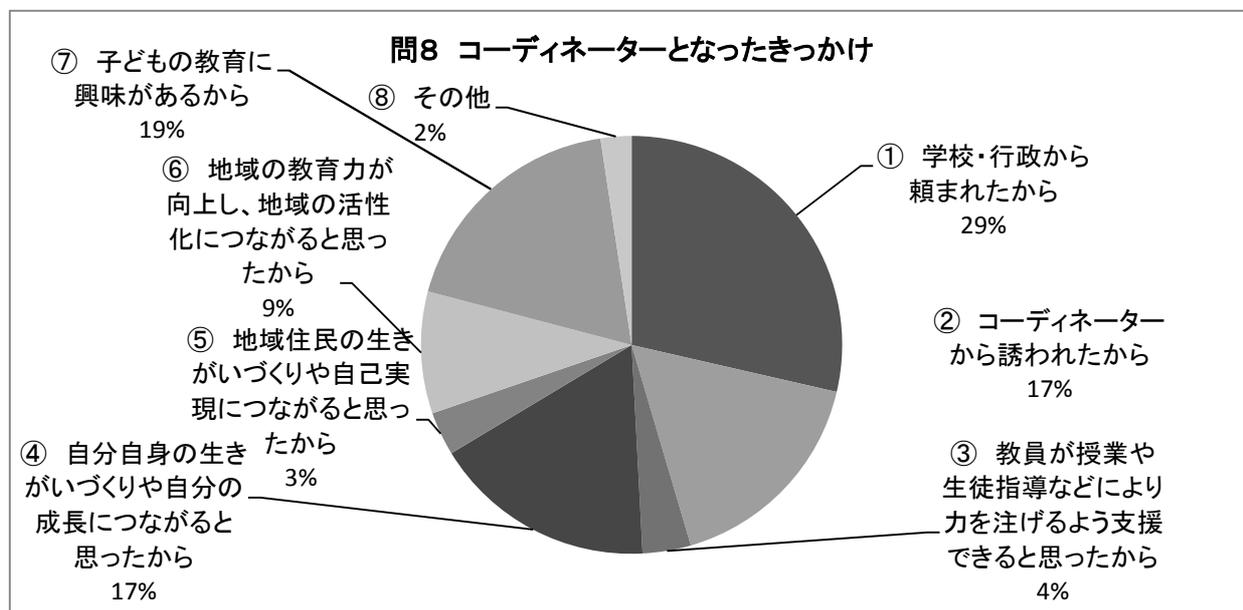
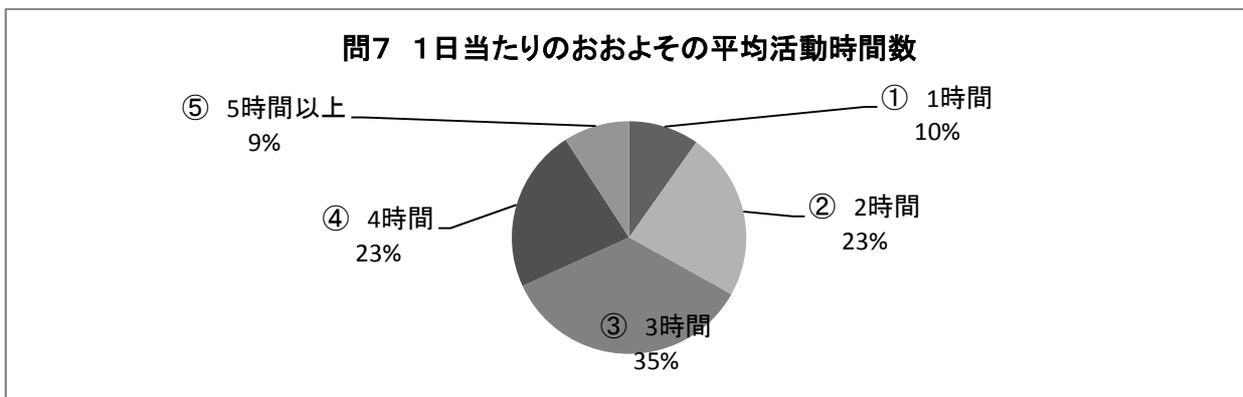
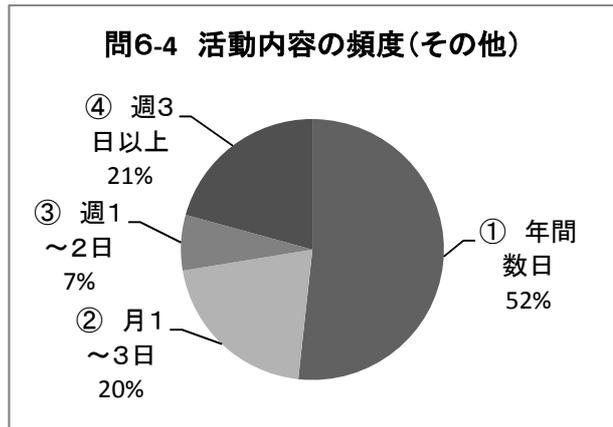
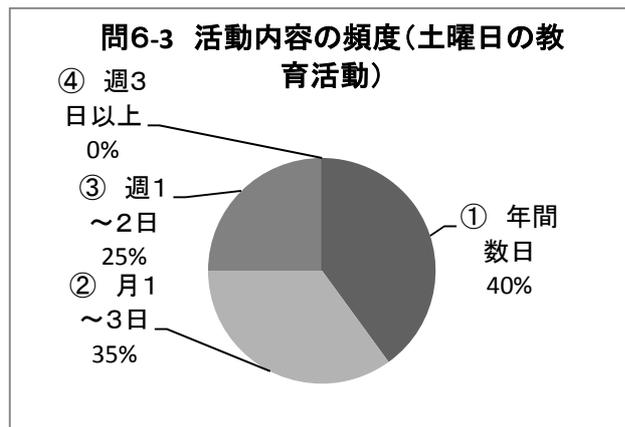
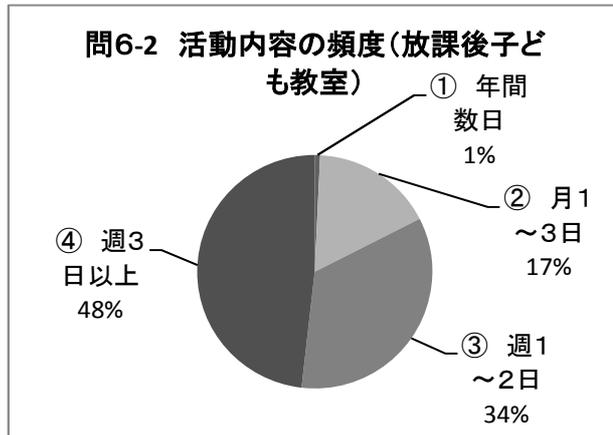
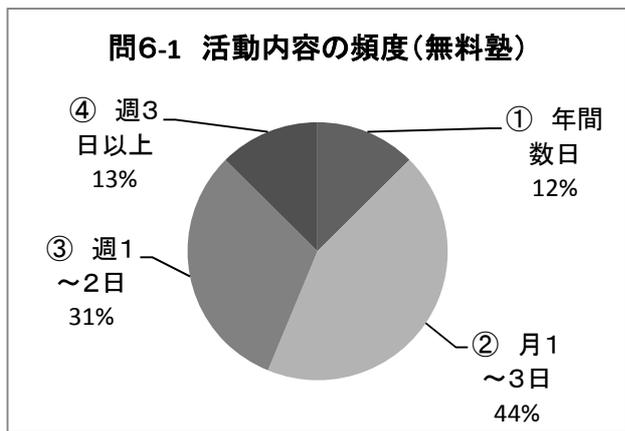


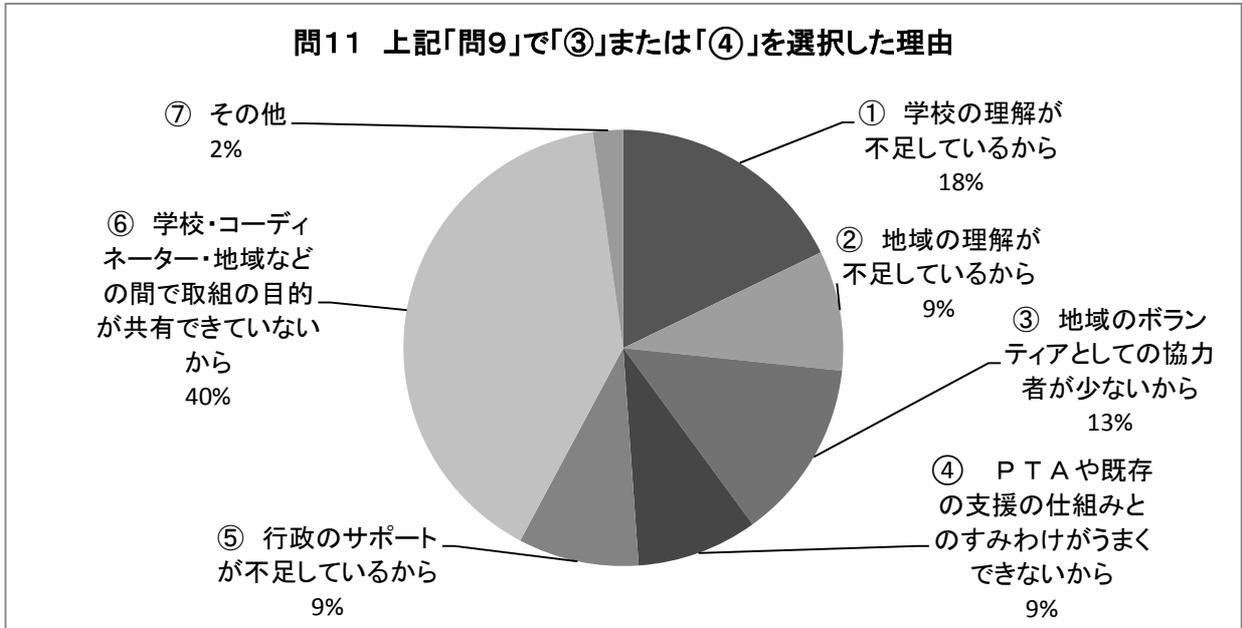
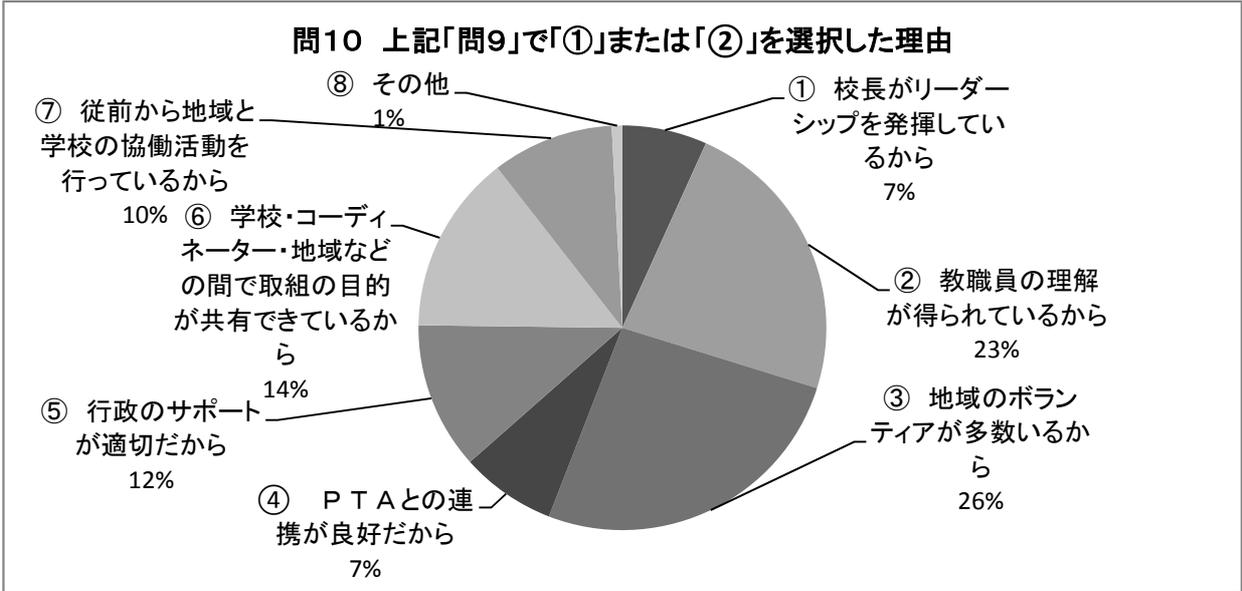
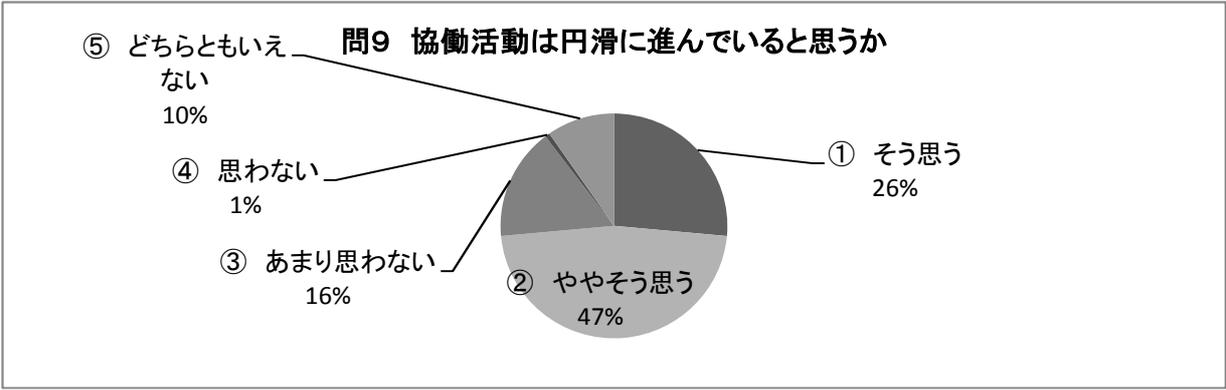
- 10 上記「問9」で「①」または「②」を選択した方に伺います。  
その要因と考えられることはどのようなものがありますか。主なものを3つまで選択してください。
- ① 校長がリーダーシップを発揮しているから
  - ② 教職員の理解が得られているから
  - ③ 地域のボランティアが多数いるから
  - ④ P T Aとの連携が良好だから
  - ⑤ 行政のサポートが適切だから
  - ⑥ 学校・コーディネーター・地域などの間で取組の目的が共有できているから
  - ⑦ 従前から地域と学校の協働活動を行っているから
  - ⑧ その他 ( )
- 11 上記「問9」で「③」または「④」を選択した方に伺います。  
その要因と考えられることはどのようなものがありますか。主なものを3つまで選択してください。
- ① 学校の理解が不足しているから
  - ② 地域の理解が不足しているから
  - ③ 地域のボランティアとしての協力者が少ないから
  - ④ P T Aや既存の支援の仕組みとのすみわけがうまくできないから
  - ⑤ 行政のサポートが不足しているから
  - ⑥ 学校・コーディネーター・地域などの間で取組の目的が共有できていないから
  - ⑦ その他 ( )
- 12 コーディネーターとしての活動上の悩みや課題と感じていることはどのようなことですか。主なものを3つまで選択してください。
- ① 学校や行政がコーディネーターにどのような役割を期待しているのかわからない
  - ② 学校内や地域でコーディネーターの存在が認知されていない（位置づけが不明確）
  - ③ 教職員の異動によって学校の方針が変わって戸惑う
  - ④ 学校が求める地域ボランティアの確保が難しい
  - ⑤ コーディネーターの拠点となるスペースが確保されていない（居場所がない）
  - ⑥ P T A活動等の取組との違いが不明確
  - ⑦ スキルアップのための研修や情報交換・交流の場が少ない
  - ⑧ その他 ( )
- 13 地域と学校の協働活動をより円滑に進めていくうえで改善が必要と思っていることはどのようなことですか。主なもの3つまで選択してください。
- ① 学校教職員の中で地域連携担当窓口（担当者）を位置づけること
  - ② 教職員が活動に理解があること
  - ③ P T Aが活動に対して理解があること
  - ④ 自治会等が活動に対して理解があること
  - ⑤ コーディネーターの研さんの場（研修・交流機会）があること
  - ⑥ コーディネーターの活動拠点（居場所）があること
  - ⑦ 市町村関係部局間での連携を深めること
  - ⑧ その他 ( )
- 14 コーディネーターとして大切と考えている活動内容は、どのようなものがありますか。主なもの3つまで選択してください。
- ① 活動計画立案
  - ② 地域のボランティアの発掘
  - ③ 地域のボランティアのマッチング
  - ④ 地域のボランティア向け説明会・研修の企画・実施
  - ⑤ 活動の広報・普及活動
  - ⑥ 学校のニーズや地域の状況の把握
  - ⑦ 行政の関係機関の連携を促進
  - ⑧ 地域の住民と地域課題を話し合い、学習しあい、地域コミュニティをつくる
  - ⑨ よくわからない
  - ⑩ その他 ( )

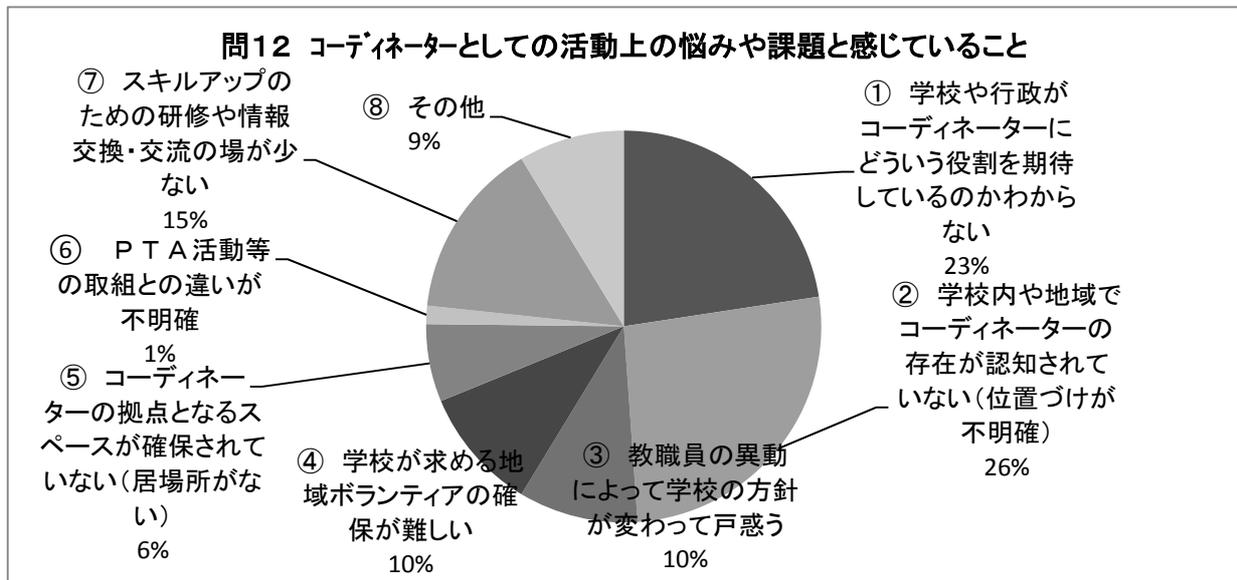
質問は、以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

# 地域と学校の連携・協働に係るコーディネーターに関する調査結果









## その他

一部の教職員に理解が得られていない。

小学校と放課後子ども教室の関係は別組織である。

放課後子ども教室の位置づけに問題がある。

地域(自治体、PTA、NPOなど)との連携が取りにくい。窓口がわかりにくい。

教室の時間が部活動の時間とかぶっている。

学習する場というよりも、子供を預ける場所と思って利用している。

保護者の理解不足

家で仕事をすることも多く、持ち出しが多い。

勤務日数が少なすぎる。

指導員との意思疎通を図り、円滑に活動すること。

学校内で活動することは、教育活動には邪魔になってしまう。

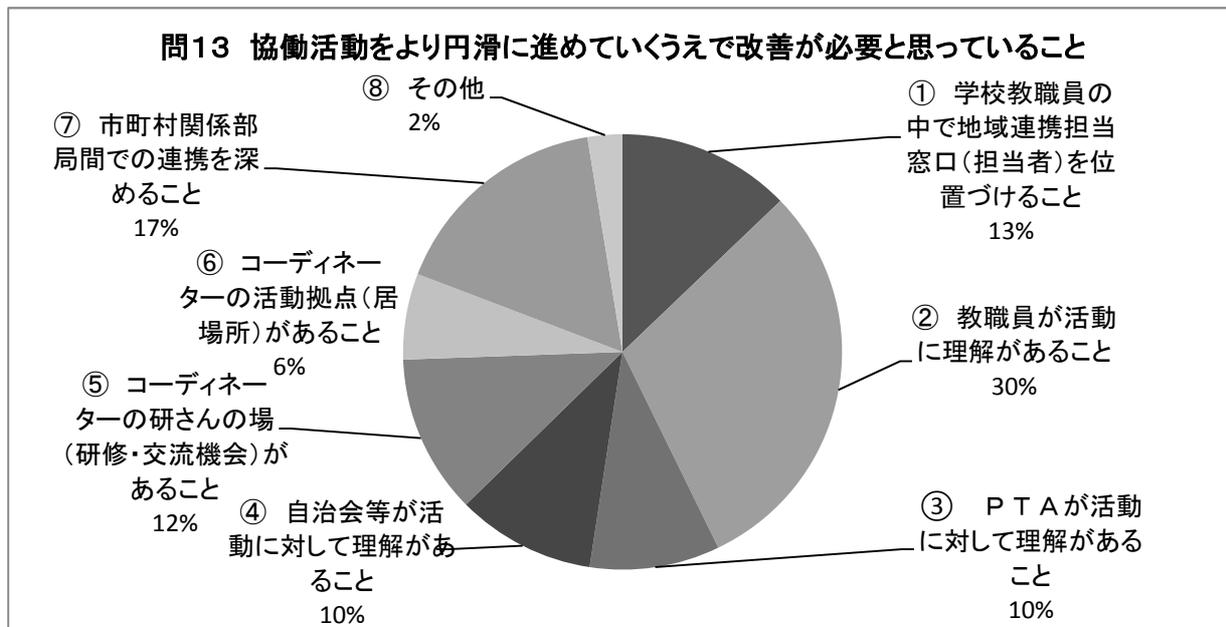
子供の問題行動への対応の仕方

児童の特性の情報が学校と共有できていない

協働活動の家庭・学校・地域行政の相互理解と目的の共有化。

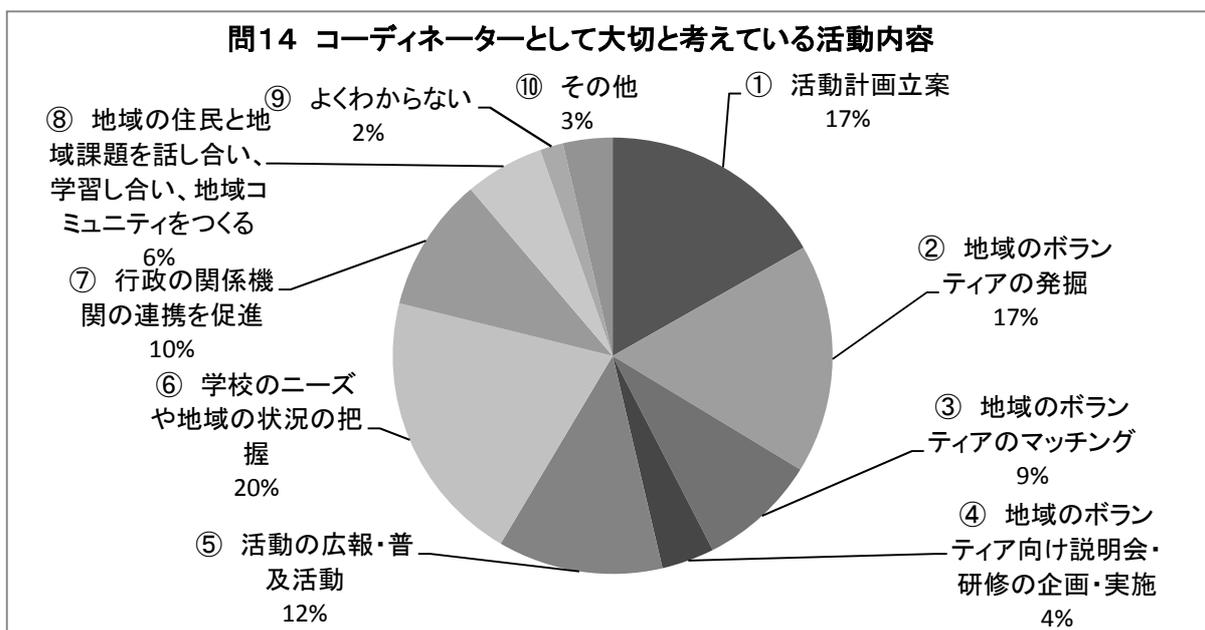
活動を継続すること。継続することで、学校・子ども・地域が変わるから。

担当課と学校との連携があまりとれていないようで情報が遅い。担当課に子どものことで相談できる人がいない。



その他

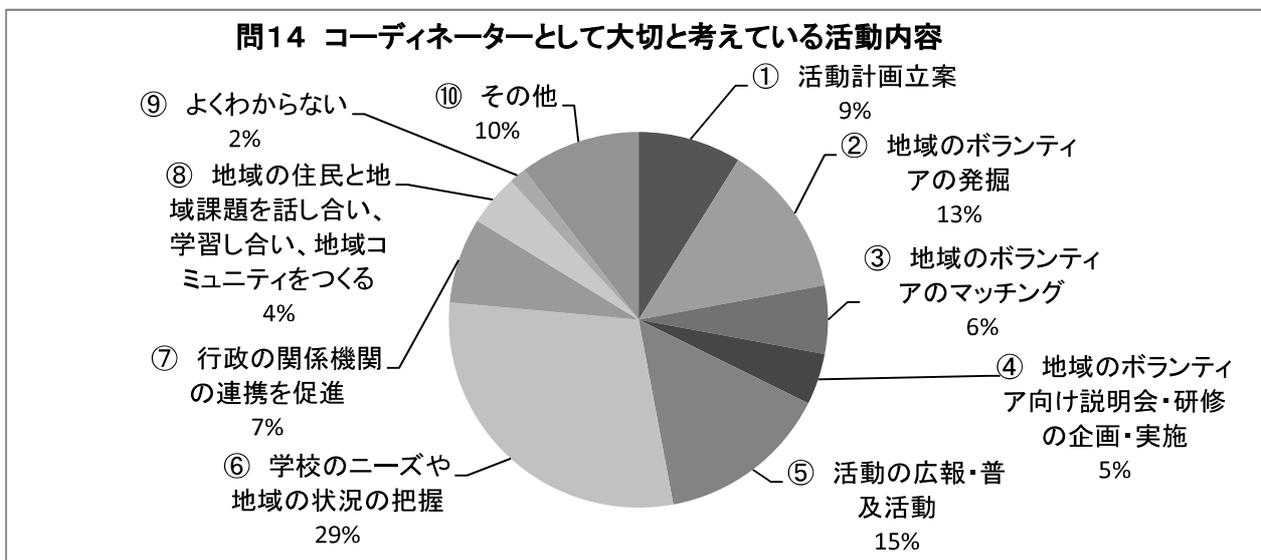
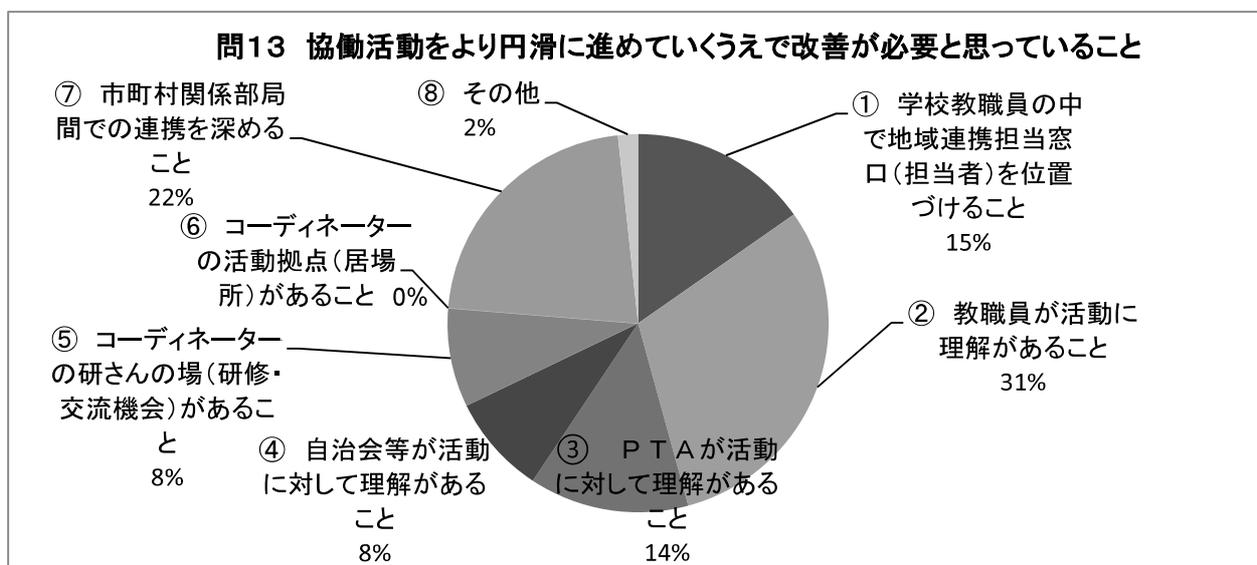
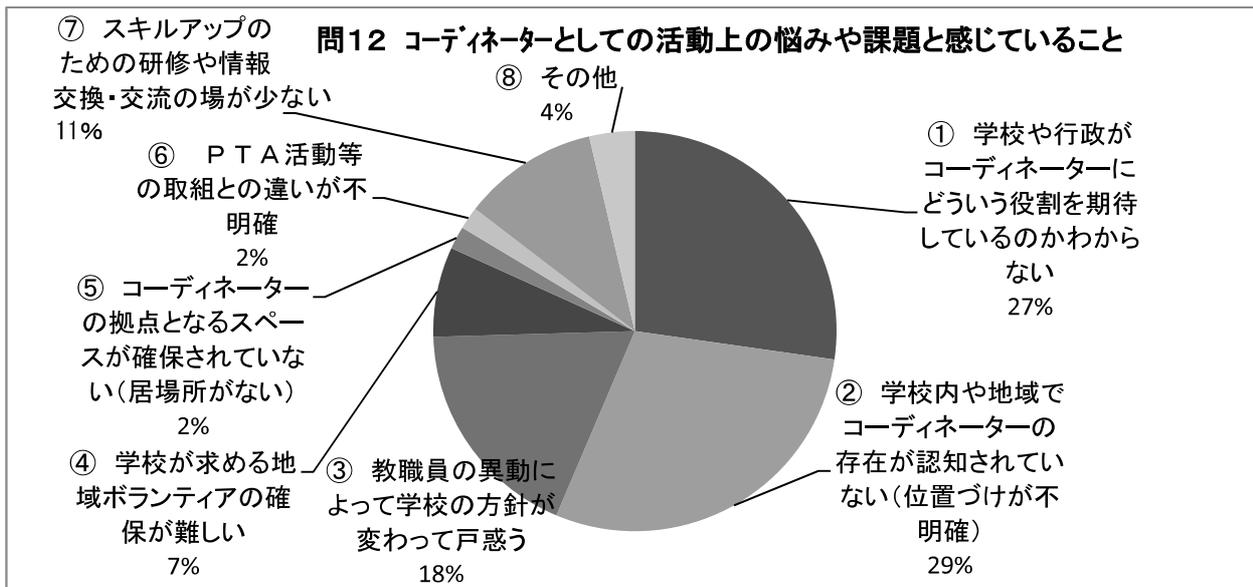
放課後子ども教室の位置づけに問題がある。  
 行政のビジョン不足  
 コーディネーターによるボランティアの発掘は困難  
 行政と自治会とボランティアがつながりを持てるような場が必要。  
 活動の中での課題について、気軽に話し合える関係性づくり。



その他

家庭教育とも連携  
 児童クラブからも連携に向けて行動してほしい。  
 保護者の理解  
 学校と放課後子ども教室の共通課題を話し合い、共有すること。  
 役割が明確化され、その機能が果たせるような権限及び情報交換の場が保障されない限り、協働などあり得ない。  
 ボランティアをしてくれた人の満足感の向上と、また手伝いたいと思ってもらえるフォローとつながり。  
 学校の教職員のボランティア活動の理解と協力体制。

地域と学校の協働活動が円滑に進んでいると「あまり思わない」「思わない」コーディネーターのクロス集計



## 地域と学校が連携・協働した取組に関する調査票

用語について：この調査では下記の用語を下記の意味で用いていますので、ご注意ください。

**【地域との協働活動】**：学校が、地域の人材、NPO等と連携・協力して、学校の授業や行事等の教育活動を始め、校舎や校庭の維持・管理、児童生徒の安全確保、放課後や土曜日の教育活動、家庭教育支援活動など、学校における教育を直接・間接を問わず支援することにより、地域を創生する活動をいう。（従来の学校支援活動も含む。）

**【コーディネーター】**：効果的に地域と学校との協働活動が行われるよう、学校のニーズに基づき、地域の人材等（ボランティア）と学校の橋渡し役を担う人をいう。

**【地域支援者】**：学校を支援する地域やNPO等のボランティアをいう。

市町村名

問	質問項目
---	------

回答欄
-----

◎ 該当する番号を選択してください。

黄色セル：プルダウンリスト選択

1 貴校の学校種を選択してください。

- ① 小学校      ② 中学校

--

2 貴校の児童生徒数（H29.5.1現在）を選択してください。

- ① 100人以下    ② 101～200人    ③ 201～300人    ④ 301～500人  
⑤ 500人以上

--

3 貴校では、地域との協働活動の取組を進めていますか。

- ① はい      ② いいえ

※ 「いいえ」を選択した場合は、問16に進んでください。

--

4 貴校において、地域との協働活動を担当する職員は、主としてどなたですか。

- ① 校長    ② 教頭    ③ 教務主任    ④ 校務主任    ⑤ 地域連携担当教員  
⑥ 事務職員    ⑦ その他（具体的に）    ⑧ 決まっていない

「その他」記入欄↓

5 貴校で地域との協働活動として取り組まれている活動に「○」を付けてください。（複数回答可）

- ① 授業補助  
② 読み聞かせ・読書活動  
③ 部活動指導  
④ 校内環境整備（校庭維持管理・図書室整備等）  
⑤ 登下校時などの子供の安全確保  
⑥ 学校行事等の運営支援  
⑦ 無料塾（地域未来塾）  
⑧ 放課後子ども教室  
⑨ 土曜日の教育活動  
⑩ 家庭教育支援  
⑪ その他（具体的に）

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
「その他」記入欄↓	

6 貴校では、児童生徒の家庭以外の地域住民に対して、学校の情報をどのように発信していますか。該当するものに「○」を付けてください。（複数回答可）

- ① 学校だよりや学年だより等を配布・回覧している
- ② 地域住民も参加できる学校参観日を設けて発信している
- ③ 運動会・学習発表会等行事への招待を通して発信している
- ④ 地区懇談会等地域との交流の場において発信している
- ⑤ ホームページを通して発信している
- ⑥ 電子メール等を利用して発信している
- ⑦ その他（具体的に）
- ⑧ 特に知らせていない

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
「その他」記入欄↓	

7 貴校と地域との協働活動を進める上で、どのような方がコーディネーターの役割を担っていますか。（複数回答可）

- ① 現PTA関係者    ② 元PTA関係者    ③ 現教職員    ④ 元教職員
- ⑤ 現行政職員    ⑥ 元行政職員    ⑦ 自治会関係者
- ⑧ 民生委員・児童委員    ⑨ その他（具体的に）    ⑩ 役割を担う人はいない

「その他」記入欄↓

8 貴校が地域との協働活動を進める上で、コーディネーターに期待することはどのようなことですか。該当するものに「○」を付けてください。（複数回答可）

- ① 地域支援者の発掘
- ② 地域支援者とのマッチング・活動計画立案・日程調整等
- ③ 地域支援者向け説明会・研修の企画・実施
- ④ 地域との協働活動の広報・普及活動
- ⑤ 地域との協働活動に関わる活動記録等作成
- ⑥ 企業・NPO等と連携した授業支援プログラムの情報収集・企画・提案
- ⑦ 地域との協働活動に関する運営委員会等への出席
- ⑧ 地域との協働活動に必要な用品等の調達
- ⑨ 学校・子供や地域のニーズ・状況把握
- ⑩ その他（具体的に）
- ⑪ 特にない

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
「その他」記入欄↓	

9 貴校では、コーディネーター及び地域支援者をどのように発掘していますか。該当するものに「○」を付けてください。（複数回答可）

- ① 「人材バンク」等登録情報の活用
- ② 市町村のホームページや広報誌での募集
- ③ 学校のホームページや広報誌での募集
- ④ 教職員からの紹介
- ⑤ PTAからの紹介
- ⑥ 地域団体等からの紹介
- ⑦ コーディネーターの紹介
- ⑧ 公民館職員・社会教育主事からの紹介
- ⑨ 公民館講座のグループに依頼
- ⑩ 社会教育委員等行政委嘱委員経験者から推薦
- ⑪ 企業からの紹介
- ⑫ その他（具体的に）
- ⑬ 特に探していない

	コーディネーター	地域支援者
①		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
「その他」記入欄↓		

10 貴校では、地域との協働活動は円滑に進んでいると思いますか。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ あまり思わない ④ 思わない  
⑤ どちらともいえない

--

11 上記「問10」で「①」または「②」を選択した学校に伺います。  
その要因として考えられることは何ですか。該当する主なものを選択してください。（3つまで）

- ① 管理職がリーダーシップを発揮しているから  
② 教職員の理解が得られているから  
③ 学校内の体制が整備されているから  
④ コーディネーターがリーダーシップを発揮しているから  
⑤ ボランティアなど地域の方の協力があるから  
⑥ P T Aとの連携が良好だから  
⑦ 行政のサポートが適切だから  
⑧ 学校・コーディネーター・地域などの間で取組の目的が共有できているから  
⑨ 従前から地域との協働活動を行っているから  
⑩ その他（具体的に）

1	
2	
3	
	「その他」記入欄↓

12 上記「問10」で「③」または「④」を選択した学校に伺います。  
その要因として考えられることは何ですか。該当する主なものを選択してください。（3つまで）

- ① 教職員の理解が不足しているから  
② 地域との協働活動を教職員が行う余裕がないから  
③ 学校内の体制が十分整備されていないから  
④ コーディネーターがないから  
⑤ 地域の理解が不足しているから  
⑥ 地域の方の協力者が少ないから  
⑦ P T Aや既存の支援の仕組みとのすみわけがうまくできていないから  
⑧ 行政のサポートが不足しているから  
⑨ 学校・コーディネーター・地域などの間で取組の目的が共有できていないから  
⑩ その他（具体的に）

1	
2	
3	
	「その他」記入欄↓

13 貴校において、地域の支援を導入した当初のねらい、また、現時点での導入した成果・効果について、それぞれに該当する主なものを選択してください。（5つまで）

- ① 子供たちの規範意識の向上につながる（つながった）  
② 子供たちのコミュニケーション能力の向上につながる（つながった）  
③ 子供たちの生活リズムの向上につながる（つながった）  
④ 子供たちの授業に対する興味関心が高まる（高まった）  
⑤ 子供たちの学力向上につながる（つながった）  
⑥ 子供たちの体力向上につながる（つながった）  
⑦ 子供たちの地域に対する興味・関心が高まる（高まった）  
⑧ 教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができる（できた）  
⑨ 教員の指導力の向上、内容の充実につながる（つながった）  
⑩ 部活動担当教員の負担軽減につながる（つながった）  
⑪ 校内環境、教育環境の改善が図られる（図られた）  
⑫ 登下校時など子供の安全が確保できる（できた）  
⑬ 学校・子供に対する関心が高まり、協力者が増える（増えた）  
⑭ コーディネーター・地域支援者自身の生きがいや自己実現につながる（つながった）  
⑮ 学校と地域の連携が深まり、交流の機会が増える（増えた）  
⑯ 地域のきずなが深まり、地域が活性化する（した）  
⑰ その他（具体的に）

	当初の ねらい	現時点 成果等
1		
2		
3		
4		
5		
	「その他」記入欄↓	

14 貴校において、今後の地域との協働活動の目指す目標・意義について、該当する主なものを選択してください。（4つまで）

- ① 社会に開かれた教育課程の実現
- ② 地域の教育力を活用した学校教育の充実
- ③ 家庭での学習が困難な子供たちへの学習支援や体験活動の機会の充実
- ④ 子供たちにとって安心・安全な居場所づくり
- ⑤ 世代間のきずなをつなぐ協働の場づくり
- ⑥ 地域住民が主体的に参画することによる、持続可能な地域づくり
- ⑦ 地域の教育力の向上、地域の活性化
- ⑧ 地域のきずなづくり、ネットワークづくり
- ⑨ 地域社会の課題解決に、地域の一員としての学校の関与
- ⑩ 地域振興、社会福祉、防災等を担当する首長部局とのパートナーシップの構築
- ⑪ 様々な悩み等を相談できる家庭教育支援の活動や機能を組み込み、孤立した保護者を支援
- ⑫ その他（具体的に）

1	
2	
3	
4	
	「その他」記入欄↓

15 貴校において、地域との協働活動を進めるために、今後、どのような取組が必要だと考えていますか。特に必要だと考えるものを選択してください。

（**必要だと考える順に**5つまで）

- ① 教職員の理解の促進
- ② 学校における受入体制の確立の促進
- ③ 学校における地域との協働活動の方針や位置付けの明確化
- ④ 行政による地域と学校の協働活動に関する計画や方針等の策定
- ⑤ 行政の体制整備の充実
- ⑥ 行政によるコーディネーター等への資質向上・サポートの充実
- ⑦ 行政によるコーディネーターの位置付け・役割の明確化
- ⑧ 行政による学校へのサポートの充実
- ⑨ コーディネーターと学校の連携・意思疎通の促進
- ⑩ 参考となる事例情報やノウハウ・ツールの収集・提供の充実
- ⑪ 学校・地域・行政等関係者の地域学校協働活動の趣旨等の共有化の促進
- ⑫ 公民館等社会教育施設と学校との連携
- ⑬ NPO、自治会等、地域団体との連携・協働体制の構築
- ⑭ 幼稚園、高等学校、特別支援学校等との連携・協働体制の構築
- ⑮ その他（具体的に）
- ⑯ 特に必要と考える取組はない

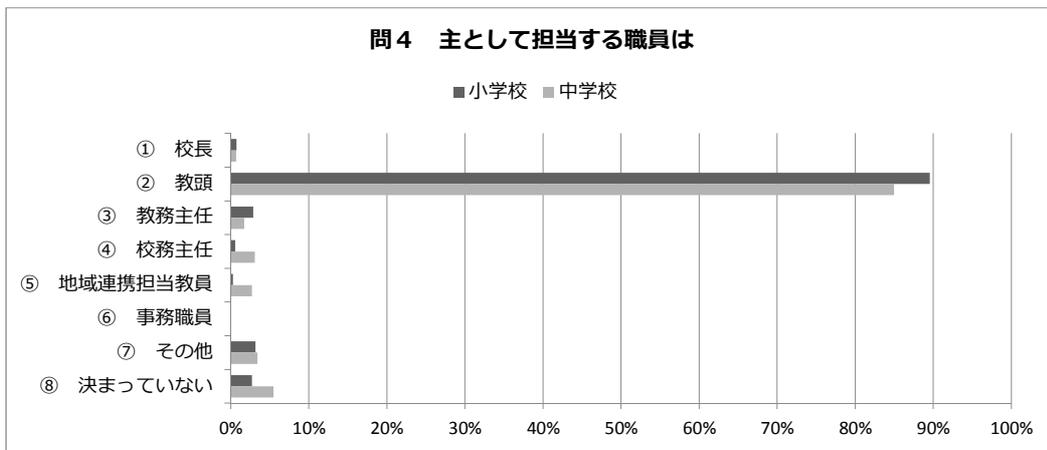
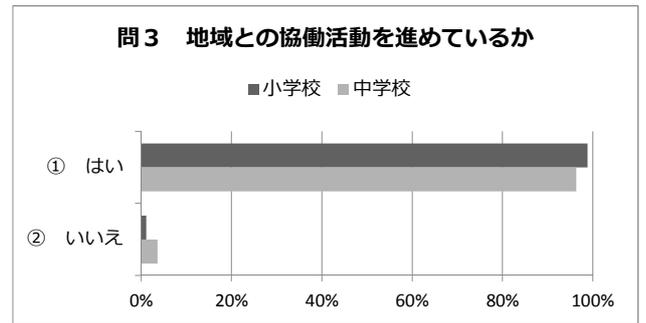
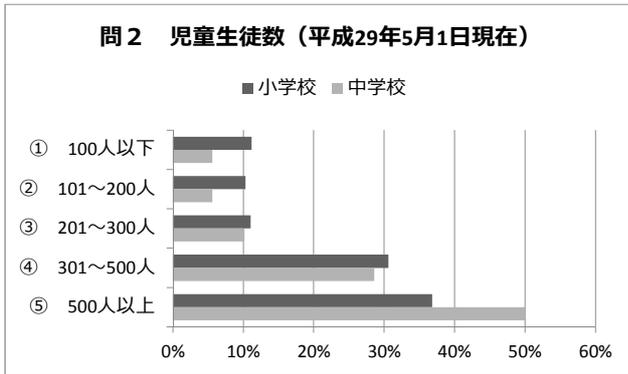
1	
2	
3	
4	
5	
	「その他」記入欄↓

16 問3で「② いいえ」を選択した学校のみ回答してください。

貴校が、現在、地域との協働活動に取り組んでいない主な理由について、記入してください。

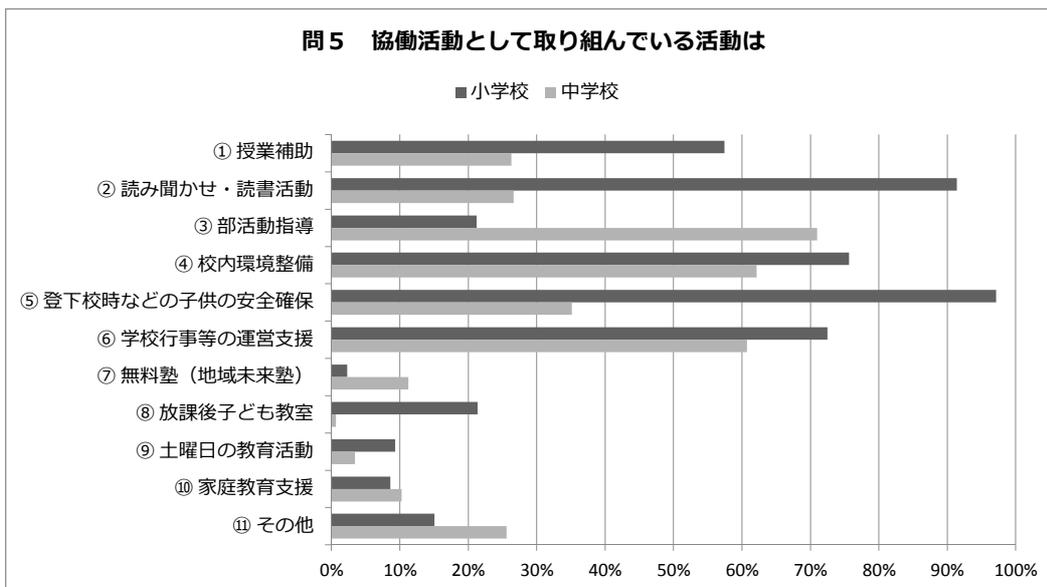
--

## 地域と学校が連携・協働した取組に関する調査結果



### その他

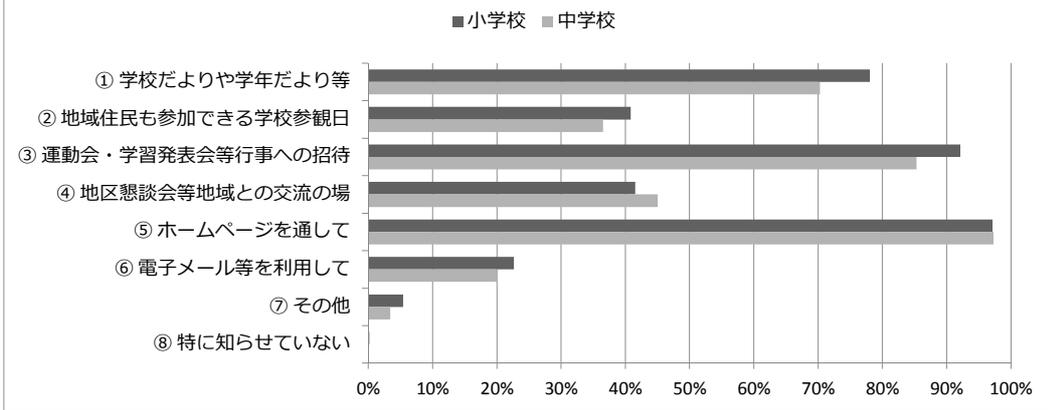
- ・活動の内容に応じて関わる職員が異なっている。
- ・地域支援団体に担当教員を決めて対応している。
- ・学年主任 ・学年担当者 ・主幹教諭 ・司書教諭 ・各行事担当者



### その他

- ・地域行事への参加 ・清掃活動 ・あいさつ運動 ・職場体験 ・生徒指導上の見守り
- ・クラブ活動 ・夏季休業中の補習の補助、校外指導 ・総合的な学習の時間 ・プール開放
- ・外国籍児童生徒への支援 ・保護者の日本語教室 ・生徒ボランティアを地域に派遣

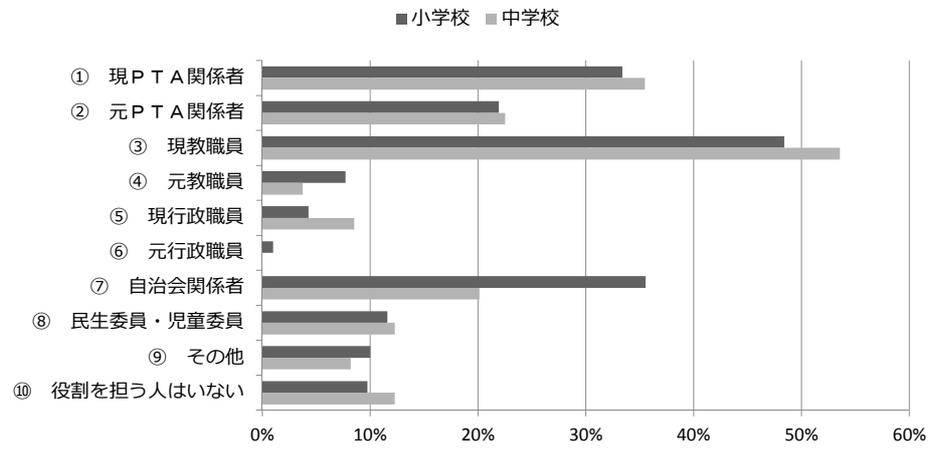
### 問6 地域住民への学校情報の発信方法は



**その他**

- ・学校運営協議会 ・地域回覧板 ・PTAだよりの配付、回覧 ・公民館等に学校だよりを掲示
- ・地域住民参加の行事で ・ブログで発信 ・独居老人宅訪問

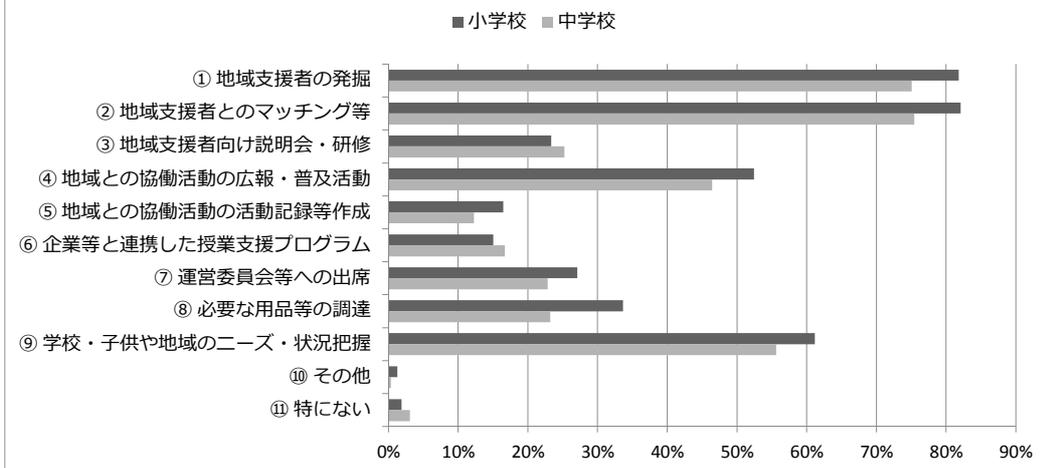
### 問7 コーディネーターの役割を担っている方は



**その他**

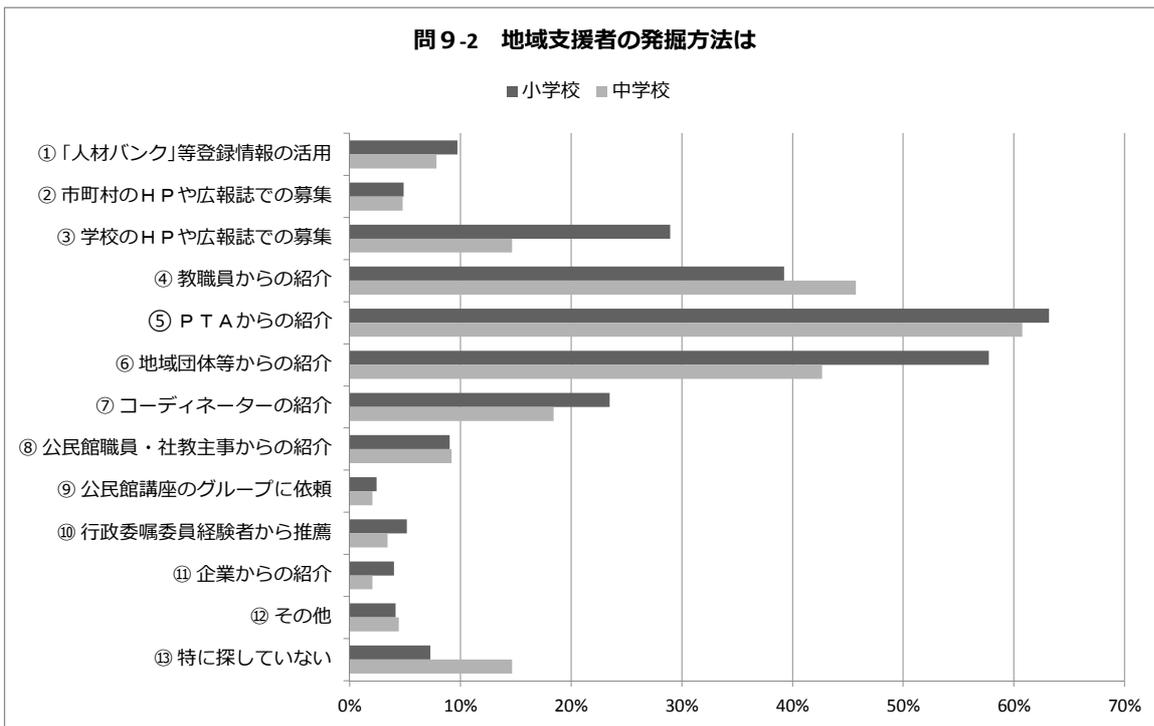
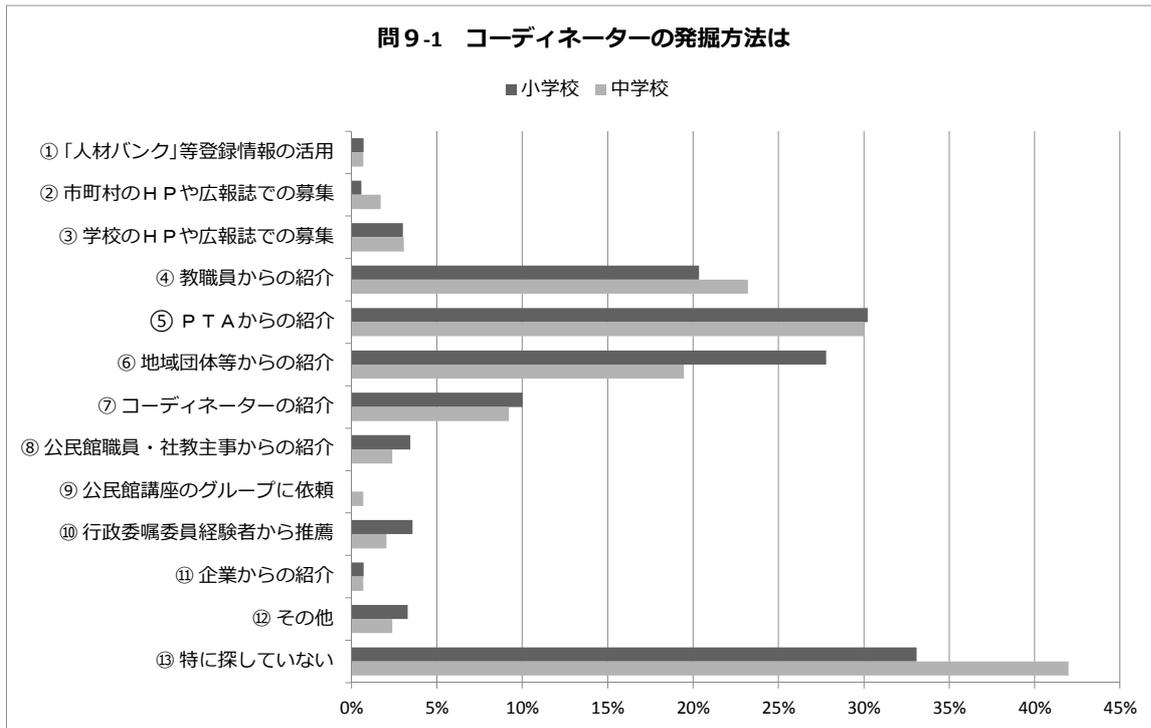
- ・学校サポーター ・学校運営協議会委員 ・学校評議員 ・教育委員 ・大学関係者
- ・児童館、公民館 ・おやじの会 ・NPO ・同窓会 ・卒業生

### 問8 コーディネーターに期待することは



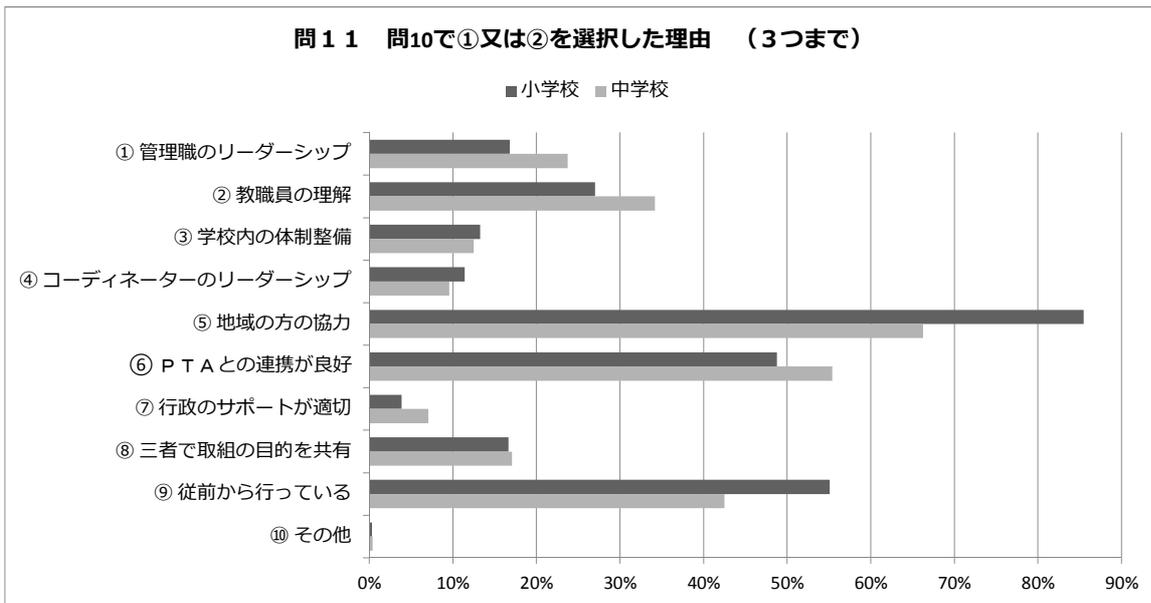
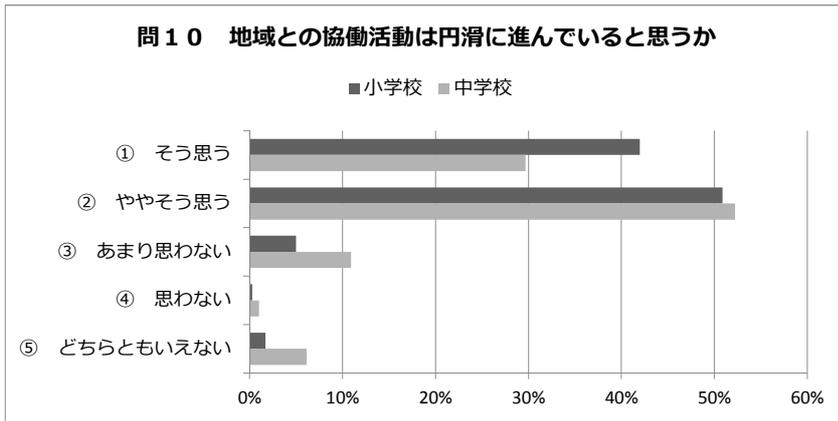
**その他**

- ・教育活動の支援 ・先進的な協働活動の紹介 ・時間の確保 ・経費の確保
- ・地域の中から主体的に出てくること



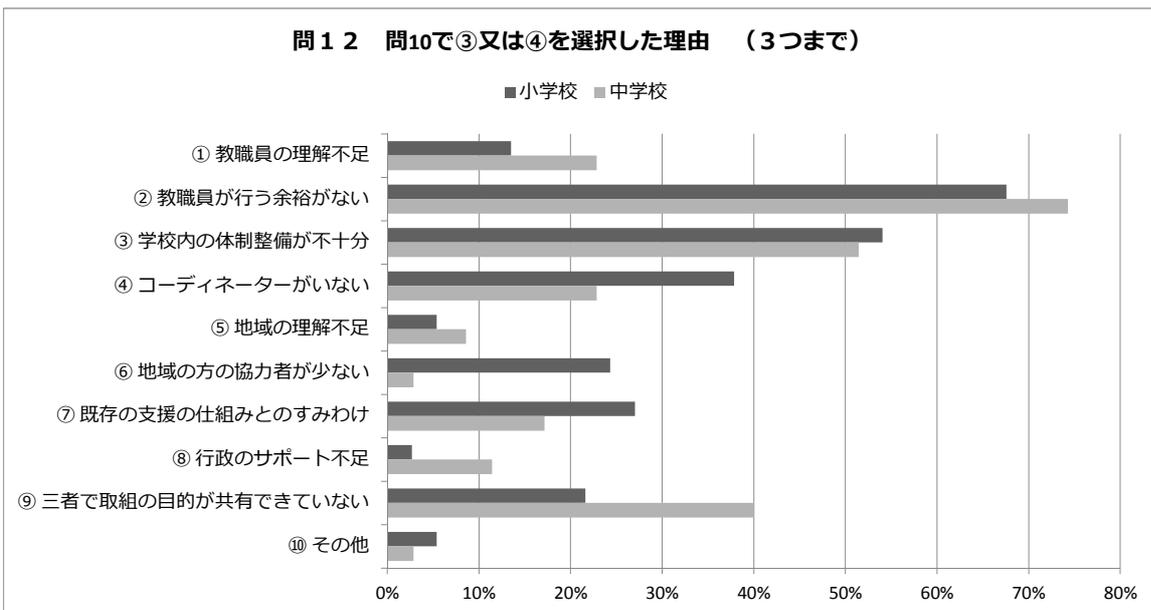
**その他**

- ・学校から直接依頼
- ・前任者から引継ぎ
- ・PTA総会で募集
- ・行政又は行政からの推薦
- ・町内会で組織されている
- ・大学からの紹介
- ・今までの実績から
- ・同窓会からの紹介
- ・元教員



**その他**

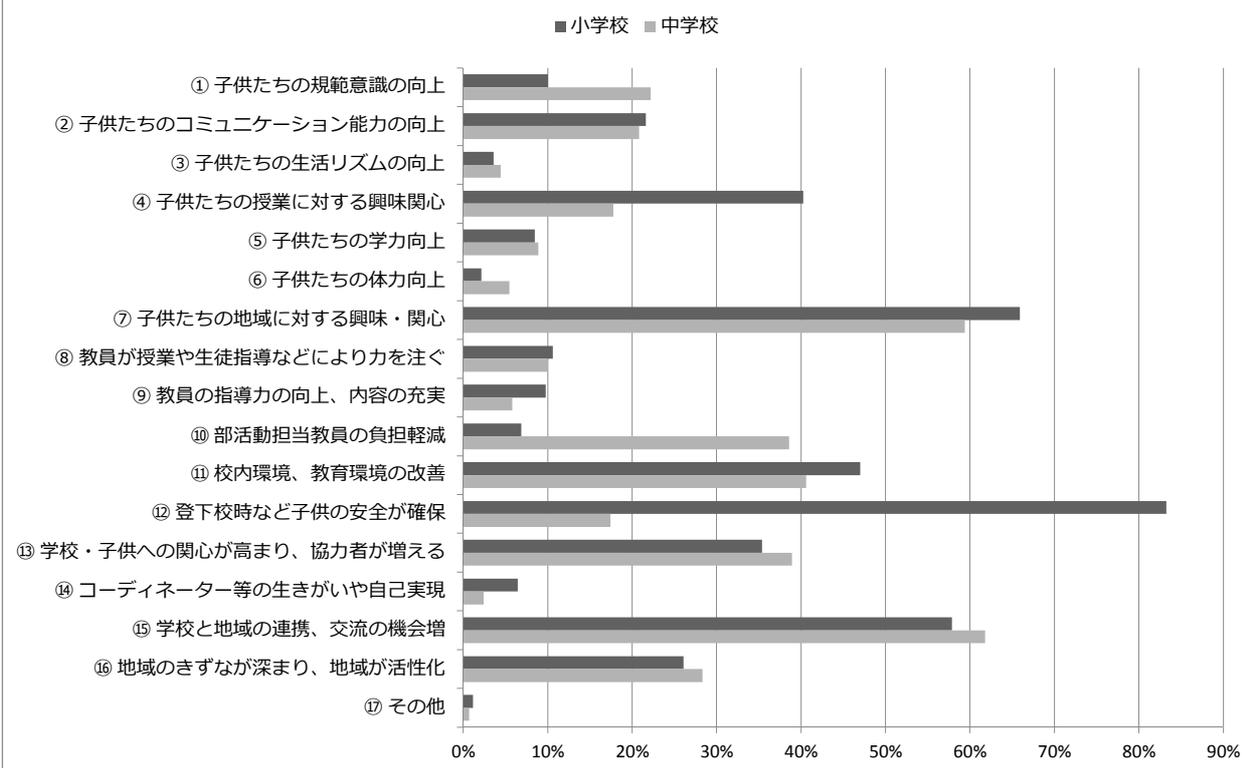
- ・コミュニティスクールとしての仕組みができているため、各団体の方の理解を得やすい
- ・家庭教育推進委員会との連携



**その他**

- ・以前から校区コミュニティや自主防災があり、それぞれの行事に参加するだけで協働といえるかどうか分からない。
- ・適当な人材がない
- ・学校が地域から離れており、地理的悪条件のため

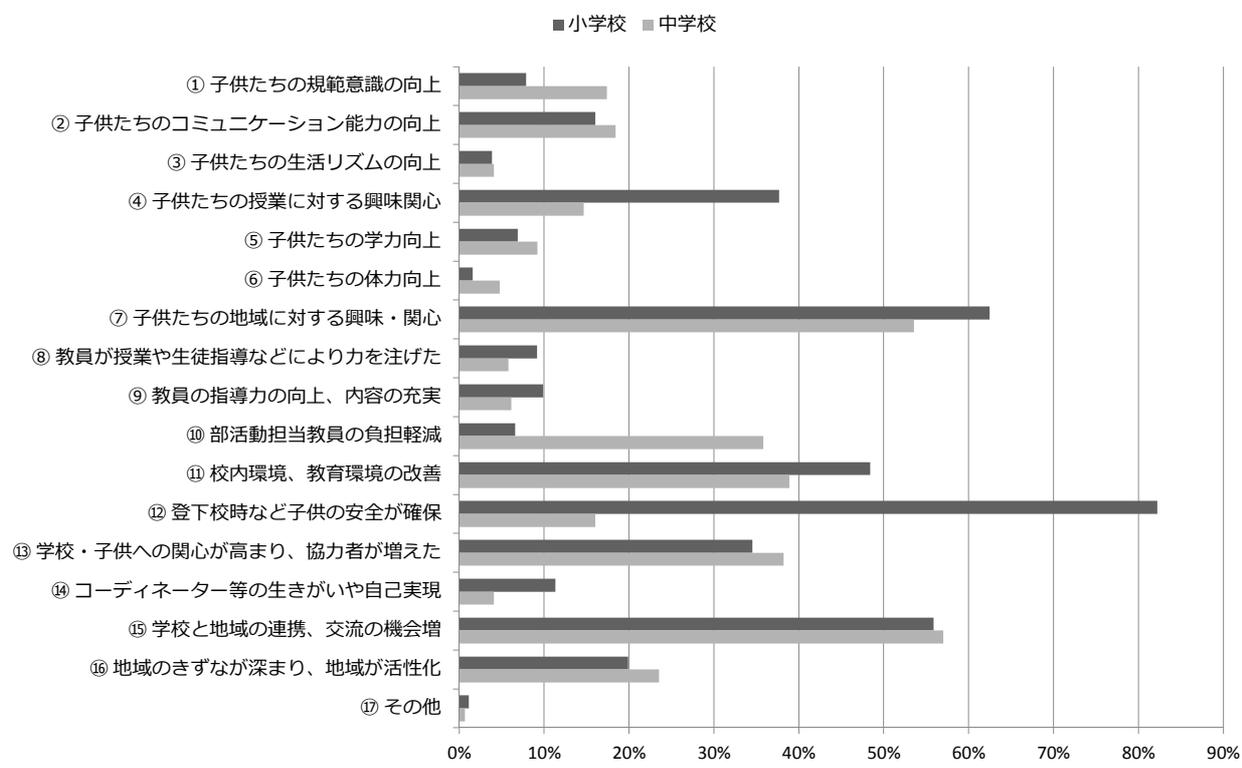
問13-1 地域の支援を導入した当初のねらいは (5つまで)



その他

- ・教職員の負担軽減 ・地域の教育力の活用
- ・地域の中の学校として、温かな目で子どもを見守る多くの協力者と手を携えて、特色ある学校づくりを推進する。

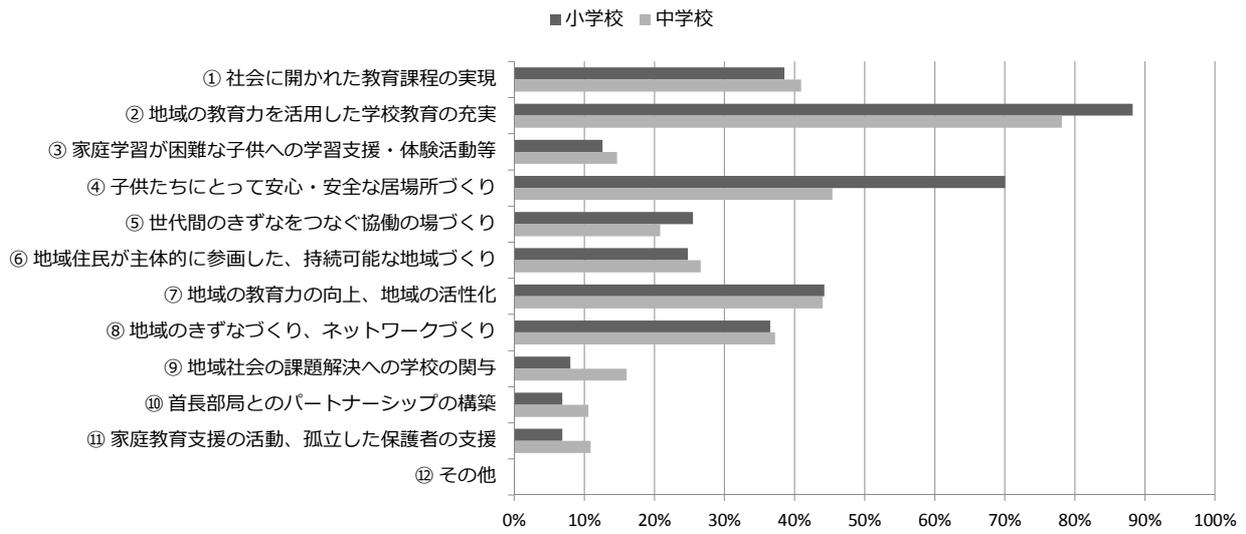
問13-2 地域の支援を導入した現時点での成果・効果は (5つまで)



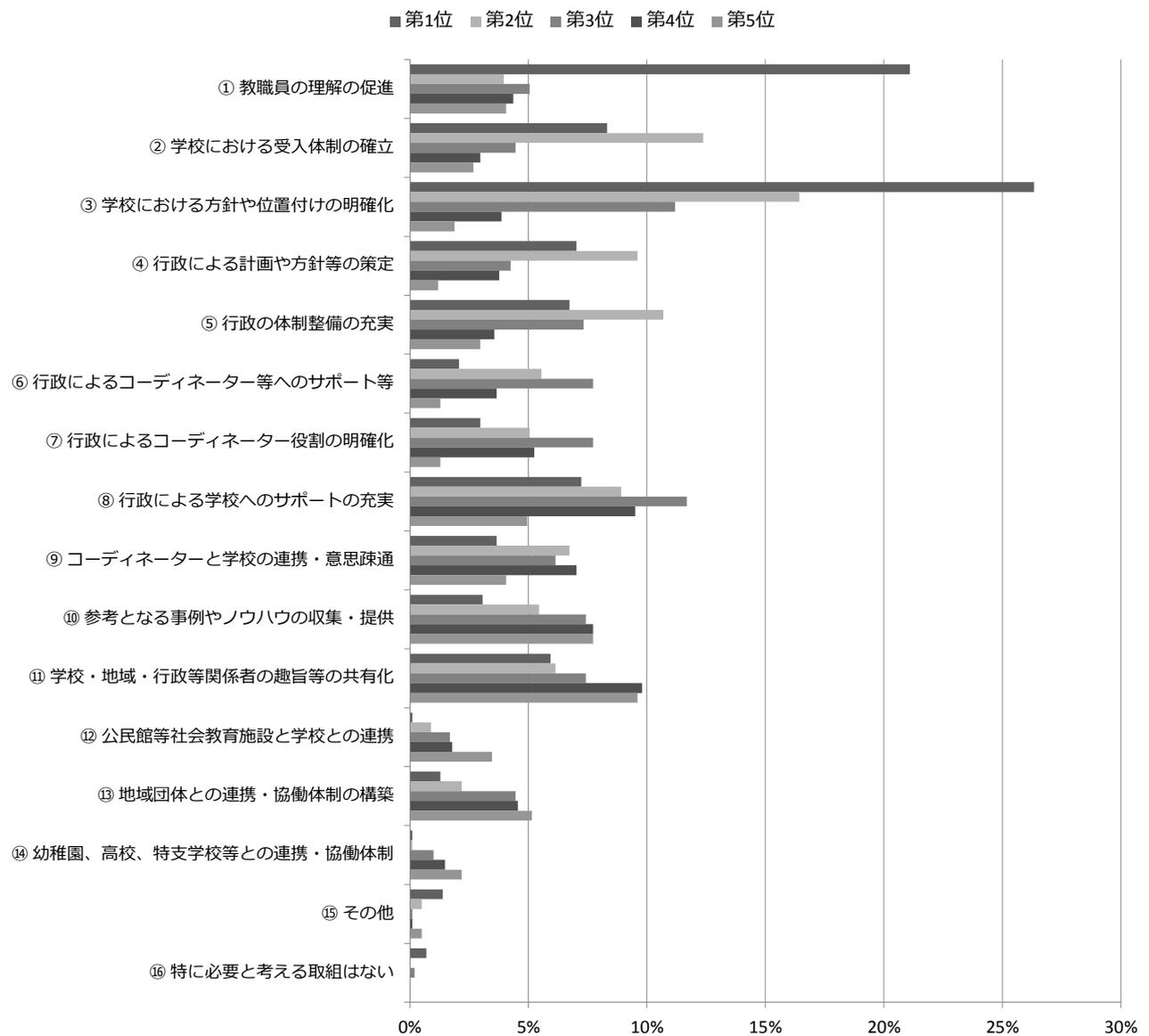
その他

- ・教職員の負担軽減 ・読書に対する興味関心が高まった
- ・まだ始めたばかりで、目に見える成果はない。

問14 今後の地域との協働活動の目指す目標・意義について（4つまで）

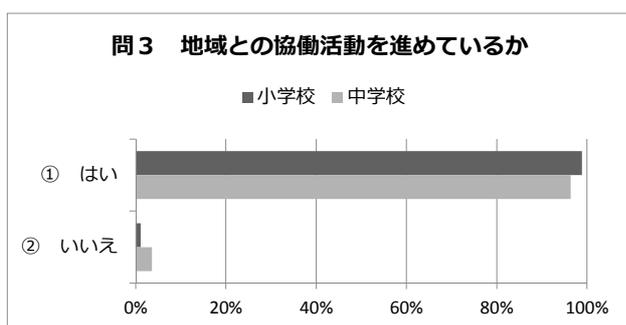


問15 地域との協働活動を進めるために、今後必要だと考える取組は（必要だと考える順に5つまで）



## その他

- ・コーディネーターを地域（教職員以外）で担うこと
- ・教室以外の活動場所がない。活動場所や施設の充実が必要
- ・地域との協働活動の必要性は、理解できる。しかし、このまま進めていくと、学校がコーディネーターを行うことになる。しかし、今のままの学校体制では、それを行う余力がない。
- ・地域学校協働本部の設置、地域コーディネーター、統括コーディネーターの配置などに対する行政のリーダーシップ
- ・地域住民の生活における余裕と参加できる地域住民が多いこと  
道徳の教科化、英語科の導入など、新指導要領実施にむけての準備があり、教員の多忙化が進んでいる。  
正直なところ、地域との協働活動を今まで以上に進める余裕はない
- ・校区自治会との連携が中心であるため、必要以上に広げても自治会自体が1年交代なので、引継にも温度差があり、現状維持または、要請のある時に支障がない範囲で取り組んでいきたい。



## 「問3」で「いいえ」と回答した学校の記述から

- ・現在のところ、あまり必要性を感じていないから。
- ・必要に応じて地域と連携・協力している。取り立てて協働活動を進める必要性を感じない
- ・地域の関係組織との話し合いの場が、まだ準備できていない。今後の課題としたい。
- ・協働活動を行うための体制が整備されていない。
- ・教職員に地域との協働活動を行う余裕がない。
- ・部活動担当教員の負担が課題であるが、地域との協働活動を整えていく見通しが立たない。
- ・P T A活動によって、おおむね学校支援が満たされている。また地域も高齢化が進み、地域からの申し出がないと学校主導では動きにくい実情もある。
- ・本校では、P T Aや校区の自治会を中心とした活動体系において、十分に子供たちの成長を育むことができていると感じている。その中で、地域との協働活動が、今後子供たちの成長を見据え、大切であると感じるならば、連携・協力し、取り組んでいきたい。
- ・地域行事等へのボランティア活動を推進しており、地域の一員として、地域を担う人材となる生徒の育成を目指して、地域との協働活動を行っているため。

## 愛知県生涯学習審議会社会教育分科会委員名簿

(五十音順・敬称略 平成30年3月現在)

氏 名	所 属 ・ 職 名 等	備 考
足立 誠	愛知県私学協会常任理事	
大島 純子	愛知県小中学校長会（一宮市立末広小学校長）	
大村 恵	愛知教育大学副学長	分科会長
岡本 明子	公募委員	
尾崎 智	愛知県都市教育長協議会（西尾市教育委員会教育長）	
恩田やす恵	愛知県公立高等学校長会（県立国府高等学校長）	
志村 貴子	子育てネットワーク	
村上千代子	愛知県地域婦人団体連絡協議会会長	
山内 晴雄	愛知県社会教育委員連絡協議会顧問	
吉田とき枝	愛知県家庭教育企画委員会委員（名古屋市立第一幼稚園長）	

### 【審議の経過】

- ① 平成28年10月12日（水） 愛知県議会議事堂ラウンジ
  - ・会長及び会長職務代理者の選出
  - ・地域と学校の協働の推進について  
調査の計画及び市町村教育委員会へのアンケートの結果と概要について
- ② 平成29年 2月14日（火） 愛知県議会議事堂会議室5
  - ・地域と学校の協働の推進について  
地域コーディネーターへのアンケートの結果と概要について
- ③ 平成29年10月30日（月） 愛知県議会議事堂ラウンジ
  - ・会長の選出
  - ・地域と学校の協働の推進について  
小中学校へのアンケートの結果と概要について
- ④ 平成30年 3月13日（火） 愛知県議会議事堂ラウンジ
  - ・まとめの最終討議
- ⑤ 平成30年 3月
  - ・まとめの愛知県教育委員会ホームページへの掲載（公表）